

演習：フィジカル・コンピューティング（後半）

12/11

3 限・4 限

演習5 | UnityのアニメーションとArduinoの接続

12/18

3 限・4 限

●
自由課題（休講）

- 余裕があればオンデマンド補講（MediaPipe / MAX）

01/08

3 限・4 限

01/15

自由課題

01/22

3 限・4 限

講評会（課題提出）

MIXAMよりFBXのダウンロード



mixamo

Characters Animations

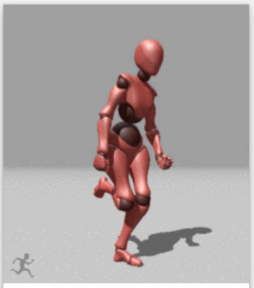
Kenri

48 Per page

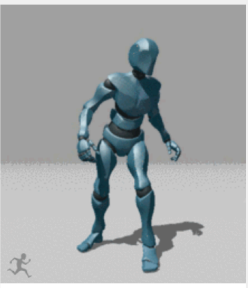
FAST RUN ON AVATAR_KODAKA2305

× "Fast Run"

Showing 1-48 of 55 results



Fast Run



Run To Stop



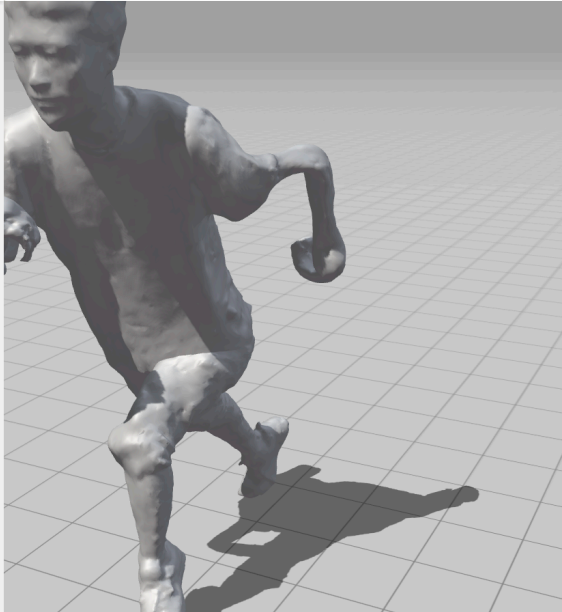
Running To Turn



Flair



Jumping



DOWNLOAD

SEND TO AERO

UPLOAD CHARACTER

Fast Run

×

Overdrive 50

Character Arm-Space 50

Trim 17 total frames

0 100

☐ Mirror

☐ In Place

<https://www.mixamo.com>

作成済みの自分自身のアバターのOBJファイルを用いて、3つのパターンのFBXファイルを作成し、ダウンロードしておいてください。

_mixamo

FastRun.fbx

Flair.fbx

Jumping.fbx

MIXAMよりFBXのダウンロード



DOWNLOAD

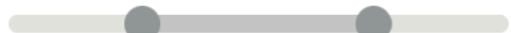
SEND TO AERO

UPLOAD CHARACTER

Fast Run ×

Overdrive 50


Character Arm-Space 50


Trim 17 total frames

0 100

☐ Mirror

☒ In Place !!

Fast Runのときに、In Placeにチェックを入れるようにしてください。位置はUnityの中で独立に制御することを想定しています。

UNITYへの移植

1

新しく作成したUNITY新規ファイルのプロジェクトビューに、3つのFBXファイルを放り込みます。

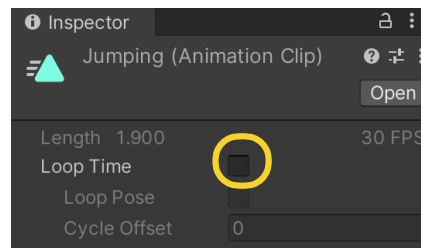
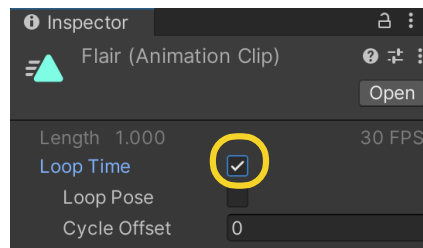
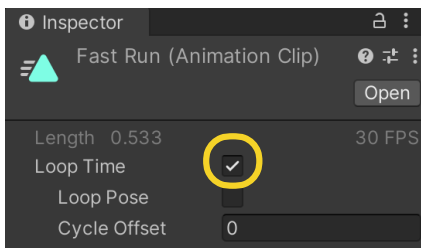
2

それぞれのFBXフォルダの中にあるアニメーションクリップ「mixamo.com」を⌘Dで複製し、対応するFBXの名前に改名したのちに、新しく作ったフォルダ（_AnimationClip）にまとめましょう。

_mixamo

FastRun.fbx
Flair.fbx
Jumping.fbx

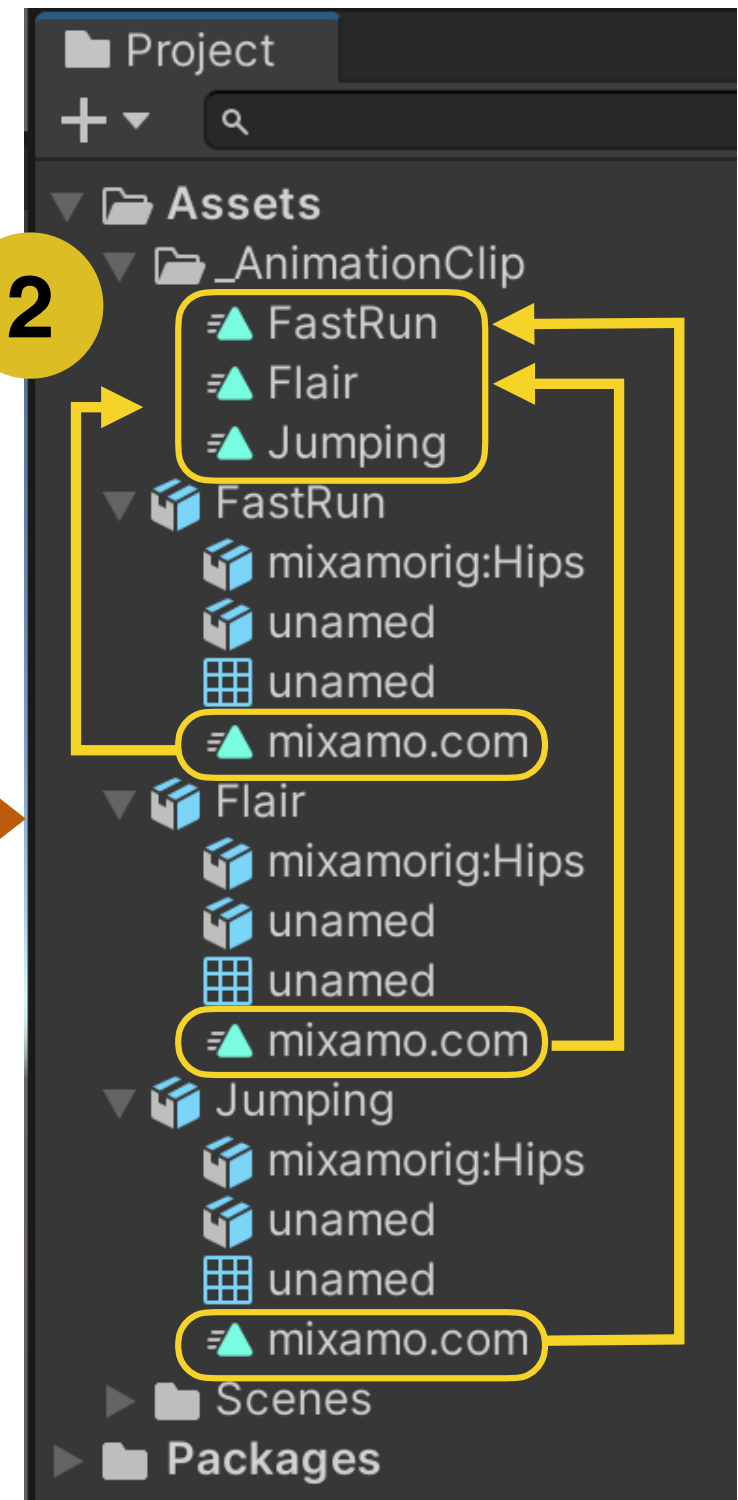
1



3

それぞれのアニメーションクリップのインスペクタから、ループの有無を設定します（Jumpingのみループなし）。

2



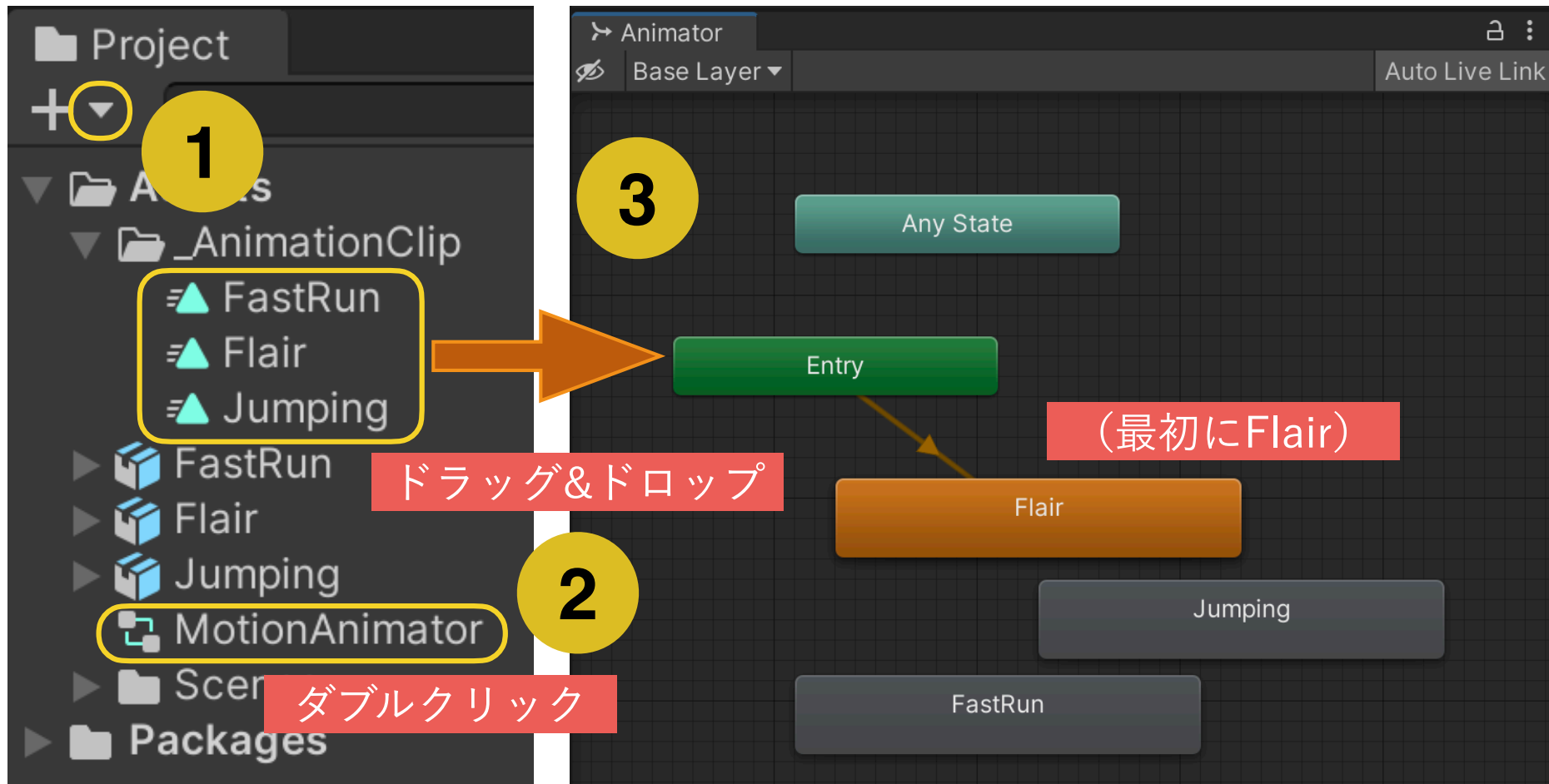
Animation Controllerの作成

1

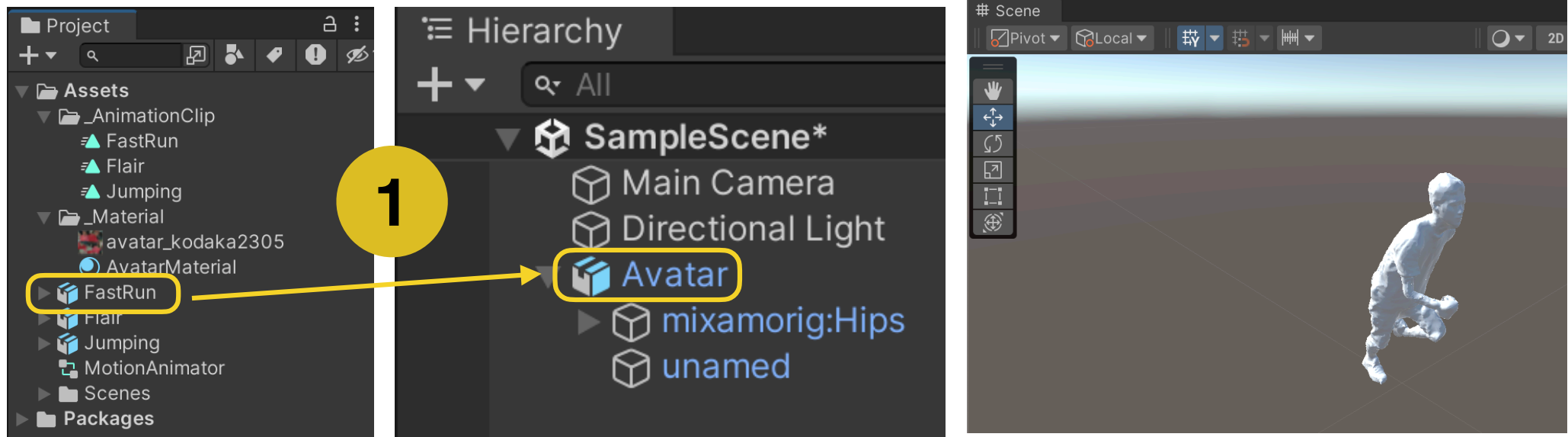
プロジェクトタブより「Animation Controller」を新規作成し、適当に名前を変えます。

23

新規作成したアニメーターをダブルクリックしてAnimator Viewを開き、先に複製した3つのAnimation Clipをドラッグ&ドロップします。この際、最初にFlairを入れて、EntryからのTransitionがつながるようにしてください。



アバターを配置し、テクスチャを貼る

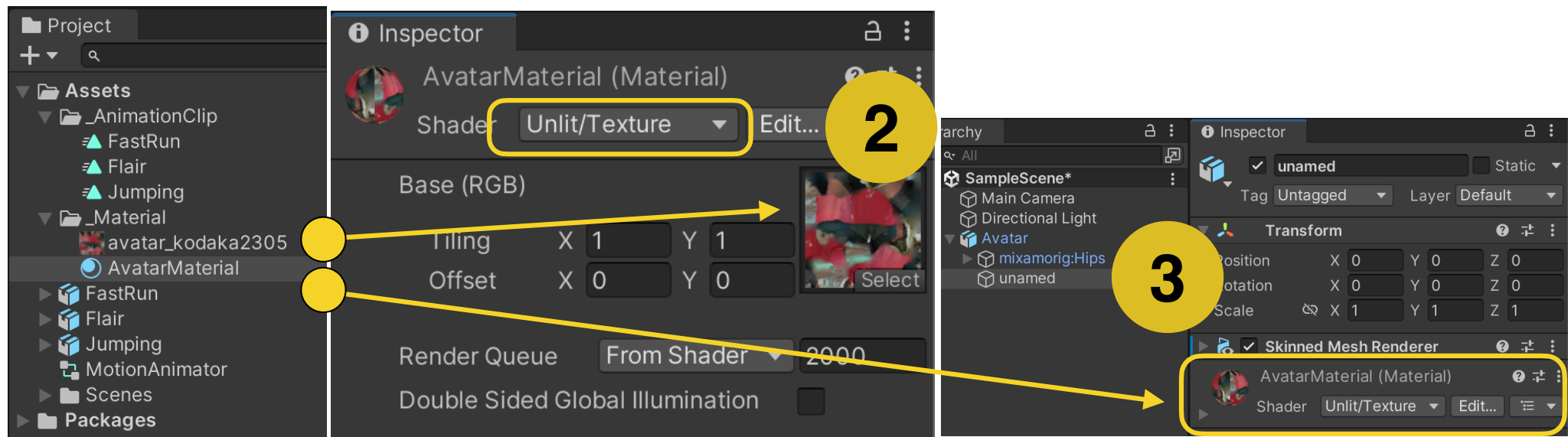


1

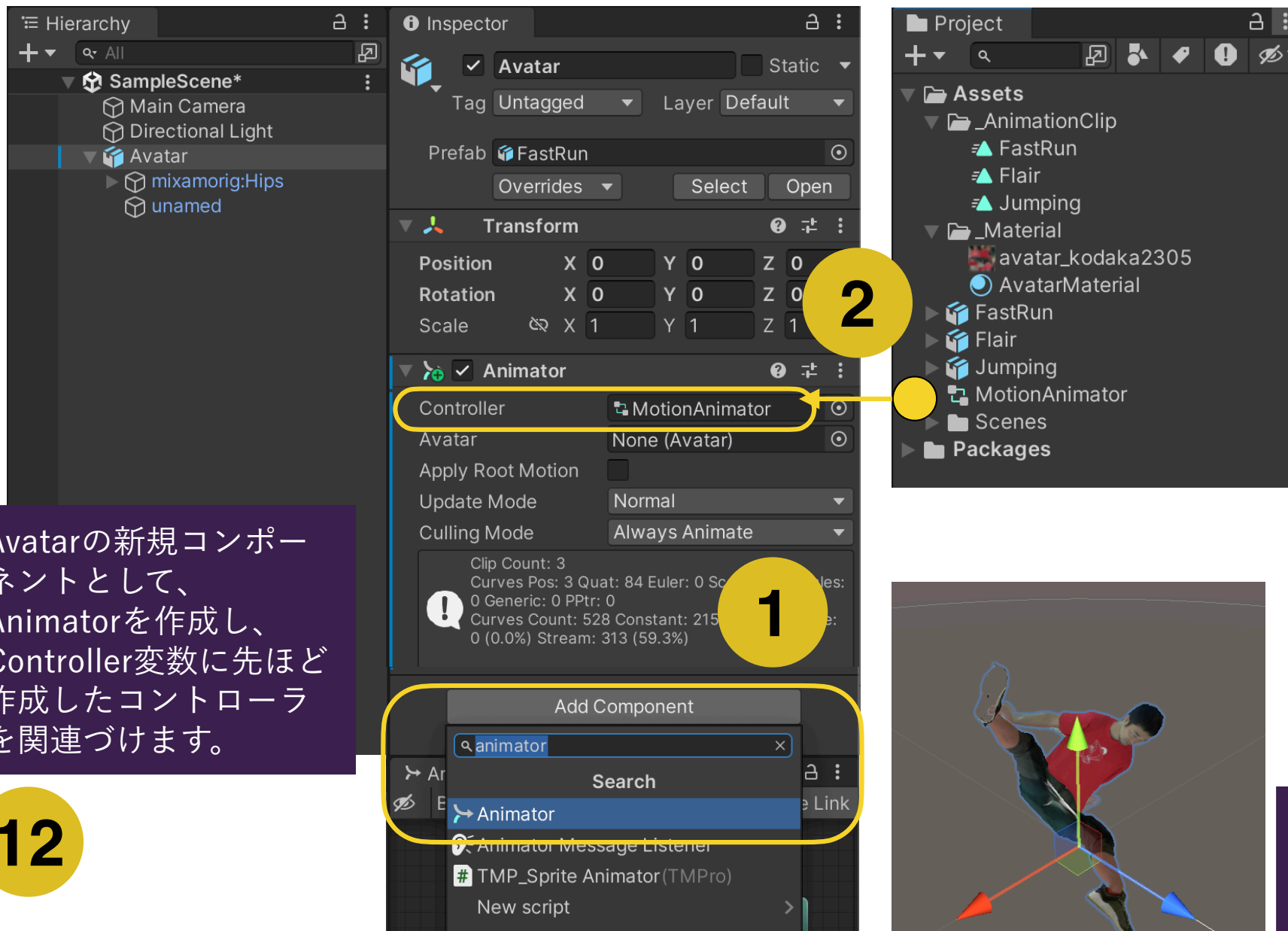
Mixamo経由のFBXファイル（どれでもよい）をヒエラルキービューに放り込み、Avatarなどのわかりやすい名前に変更してください。

23

新規作成したマテリアルのShaderを「Unlit/Texture」とし、Metashapeから出力されたアバターのテクスチャ（jpg）を貼ってください。最後に、Avatar/unamedに、マテリアルを紐づけます。



アバターとコントローラの関連付け



Avatarの新規コンポーネントとして、Animatorを作成し、Controller変数に先ほど作成したコントローラを関連づけます。

12

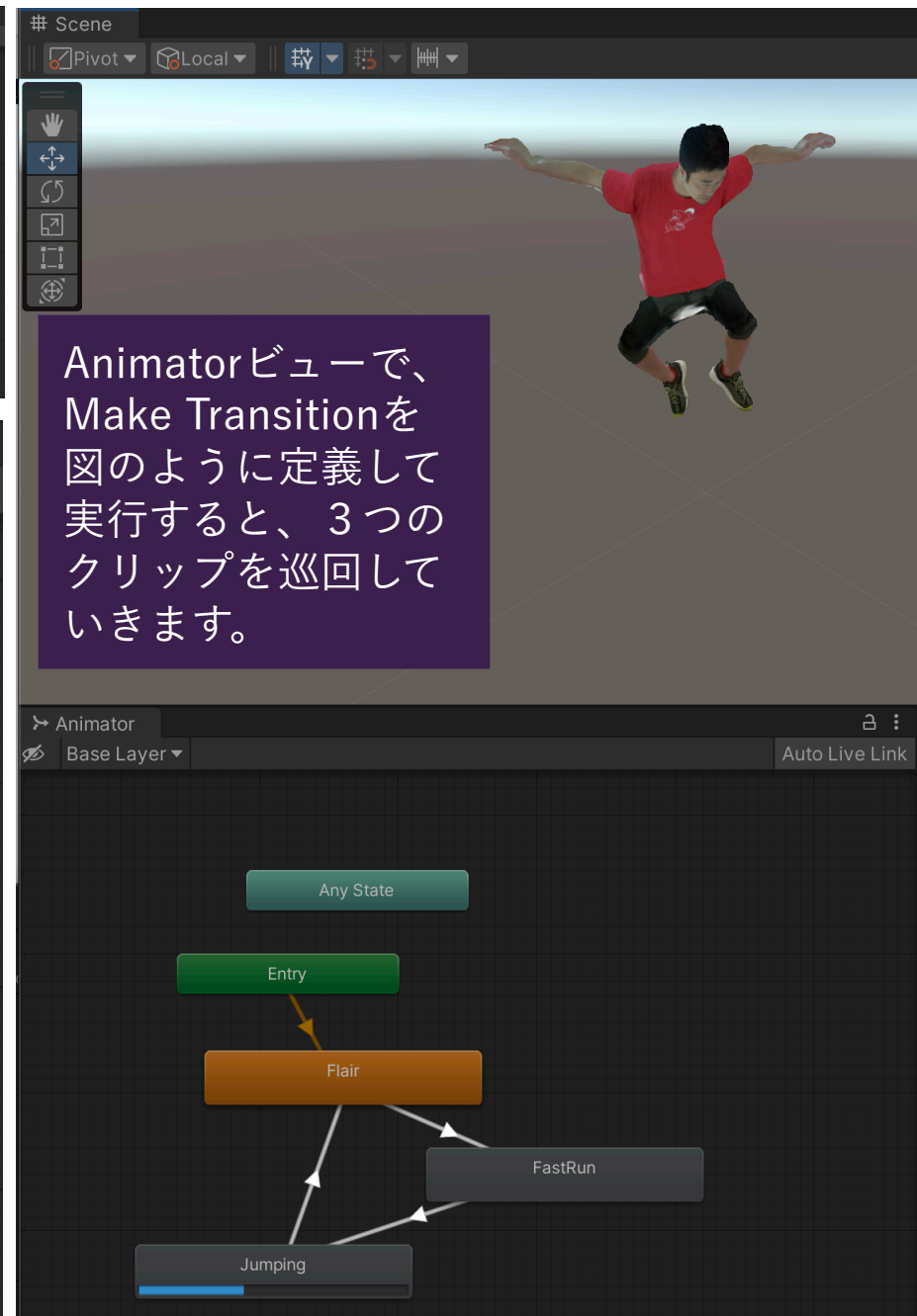
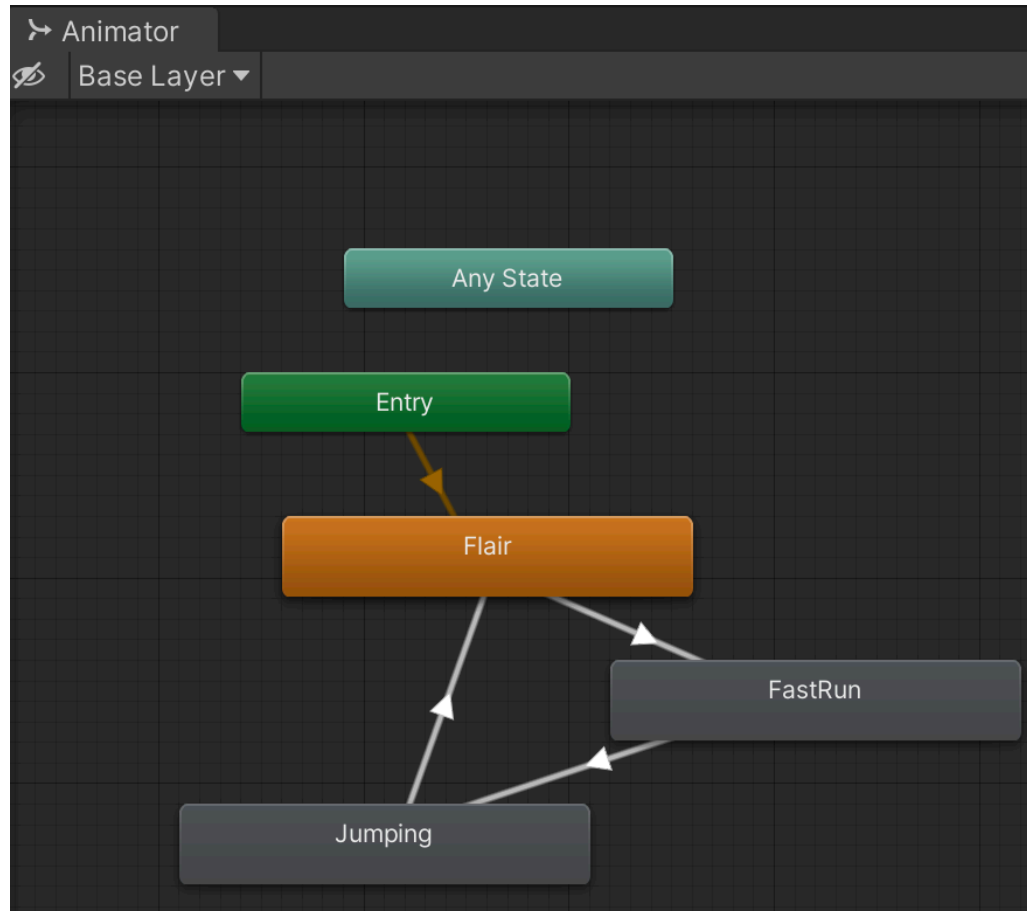
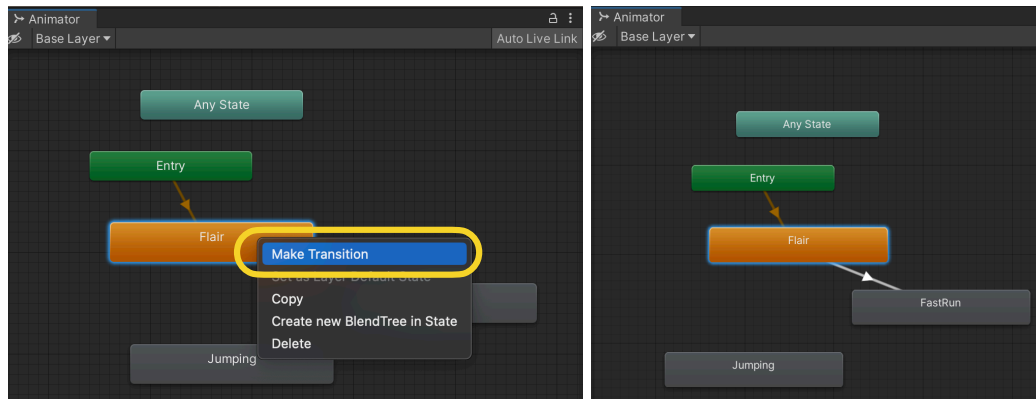
1

2

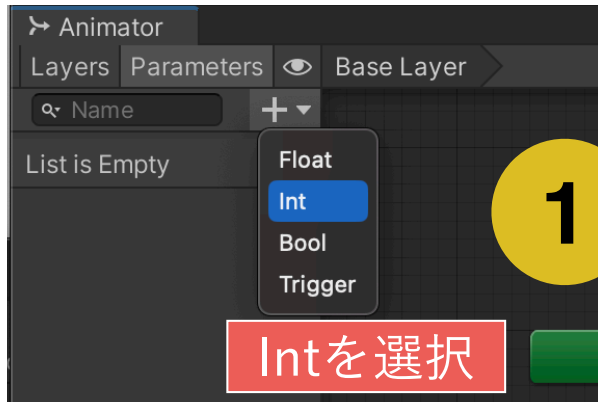
3

実行するとFlairのアニメーションを踊り続けます。

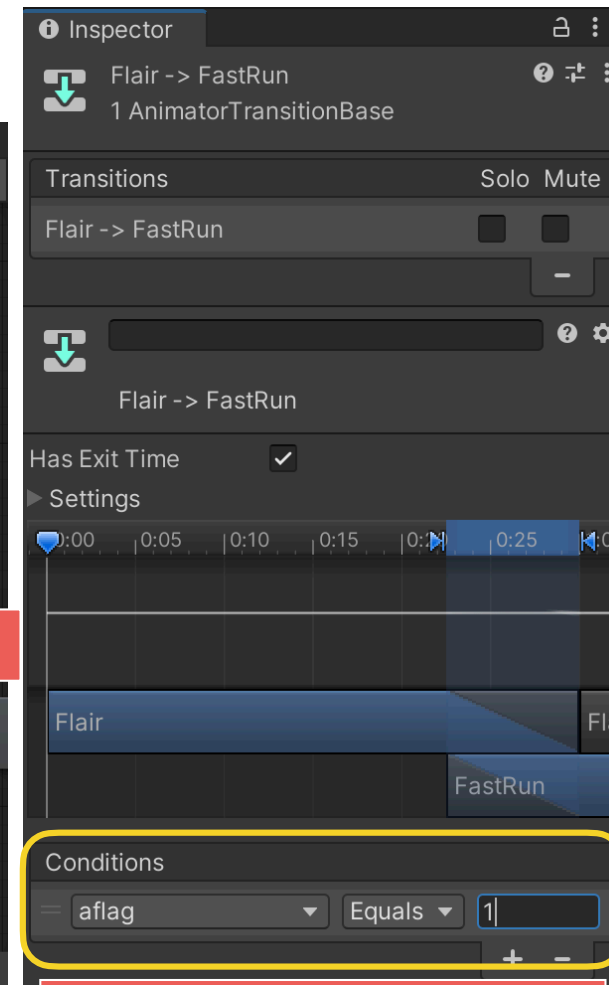
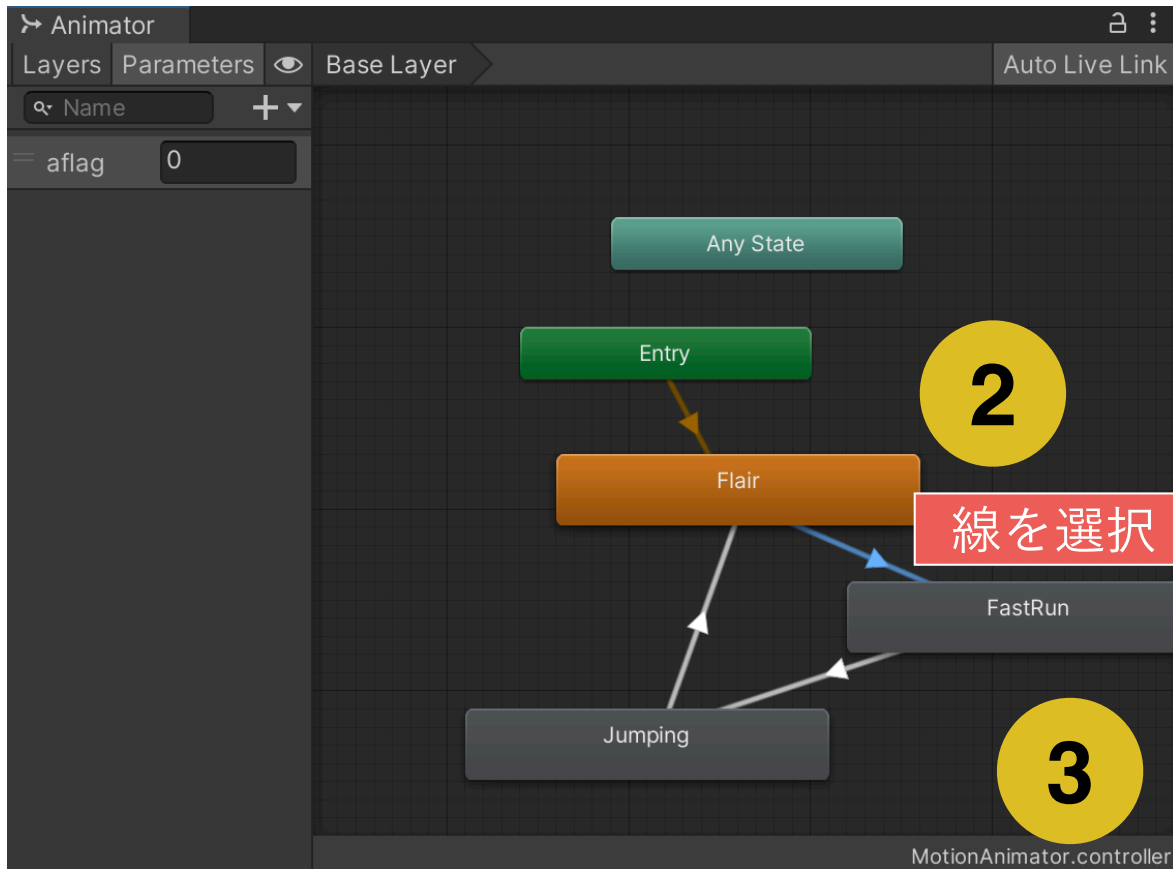
複数のアニメーションクリップを遷移させる



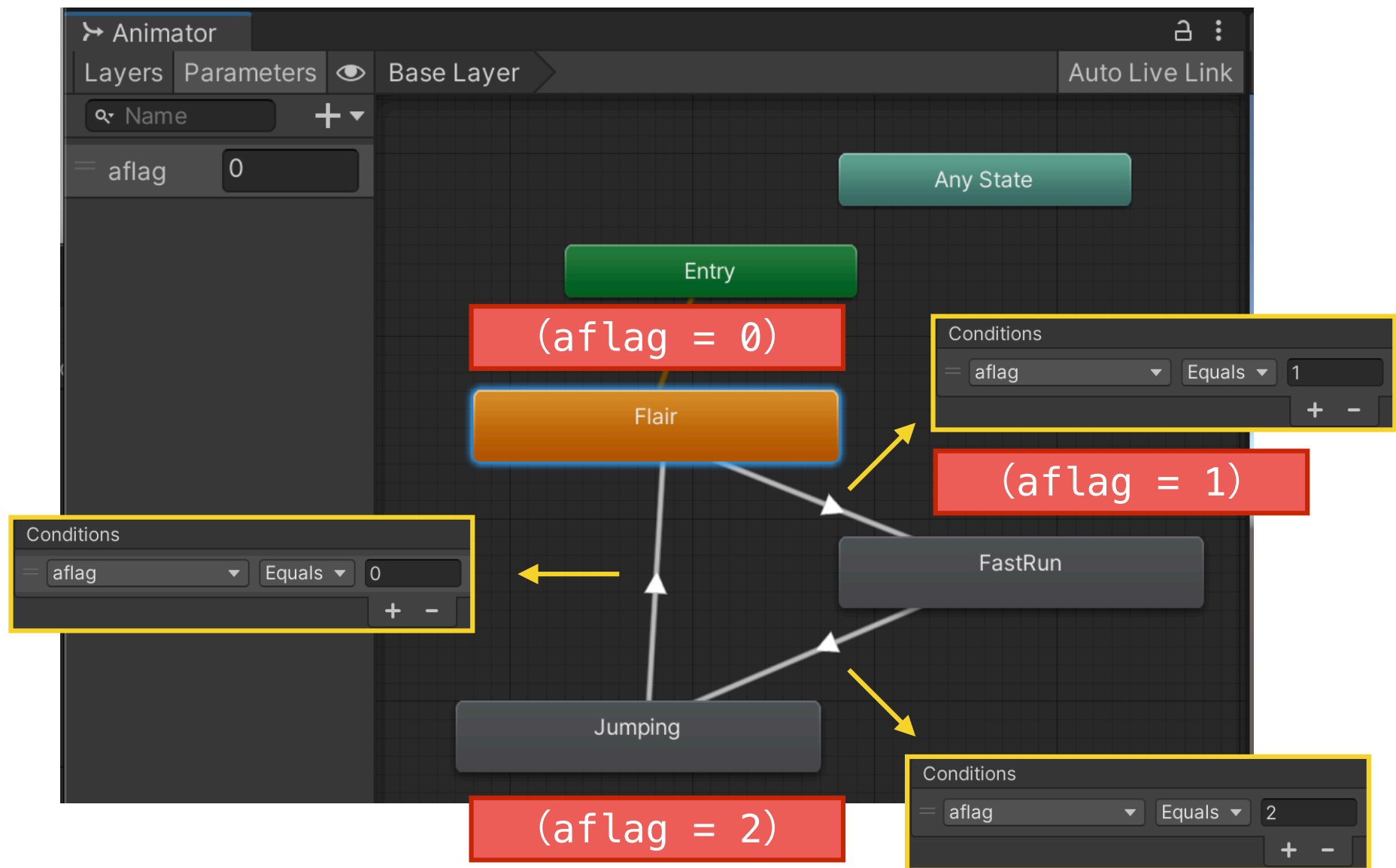
トランジションを変数で駆動する (1/2)



Animatorビューで、int型の変数（aflag：初期値0）を追加し、「Flair→FastRun」の遷移が「aflag=1」となることで発動するように変更します。この状態で実行しても、FastRunへのトランジションが生じることはありません。



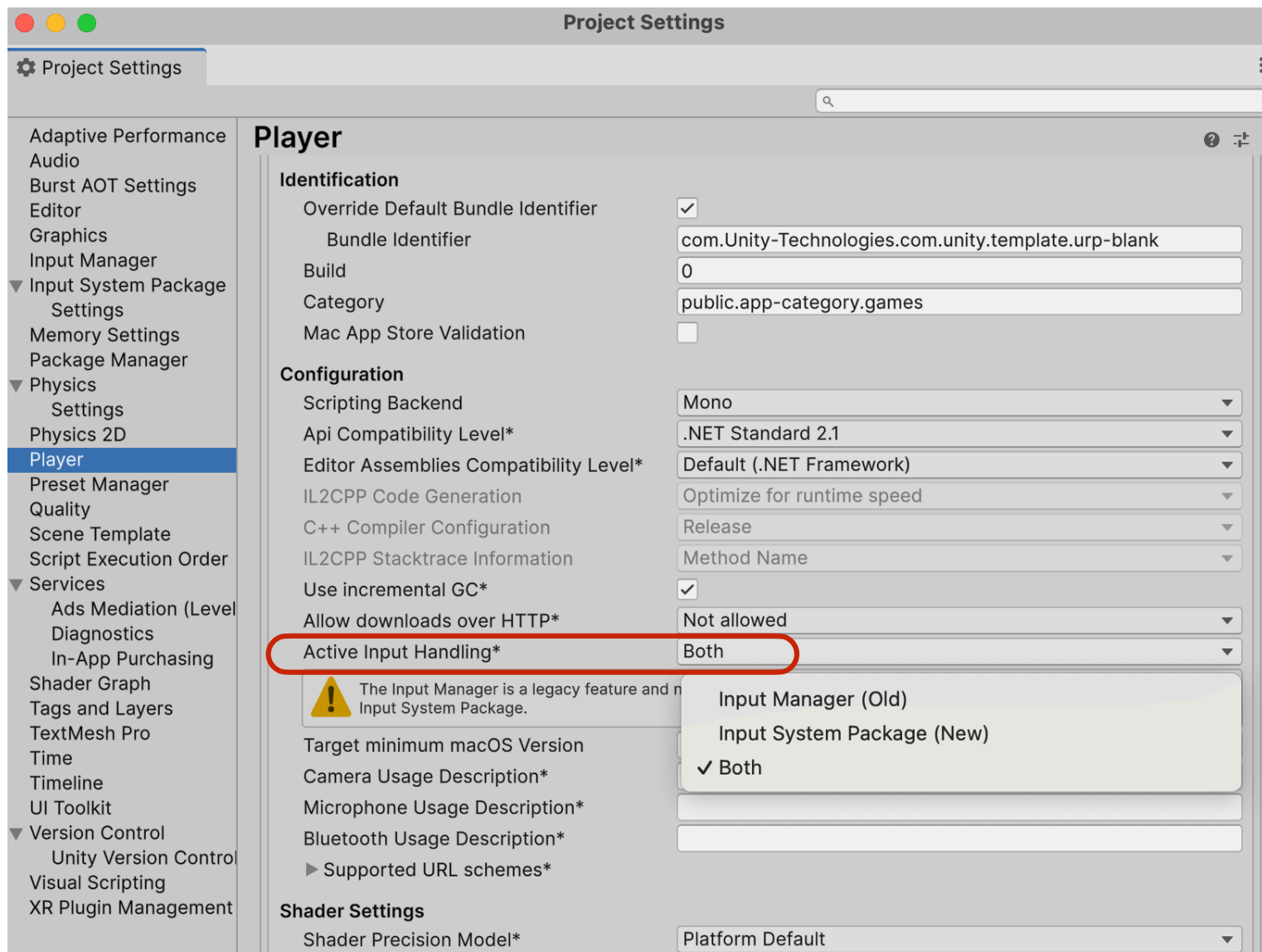
トランジションを変数で駆動する (2/2)



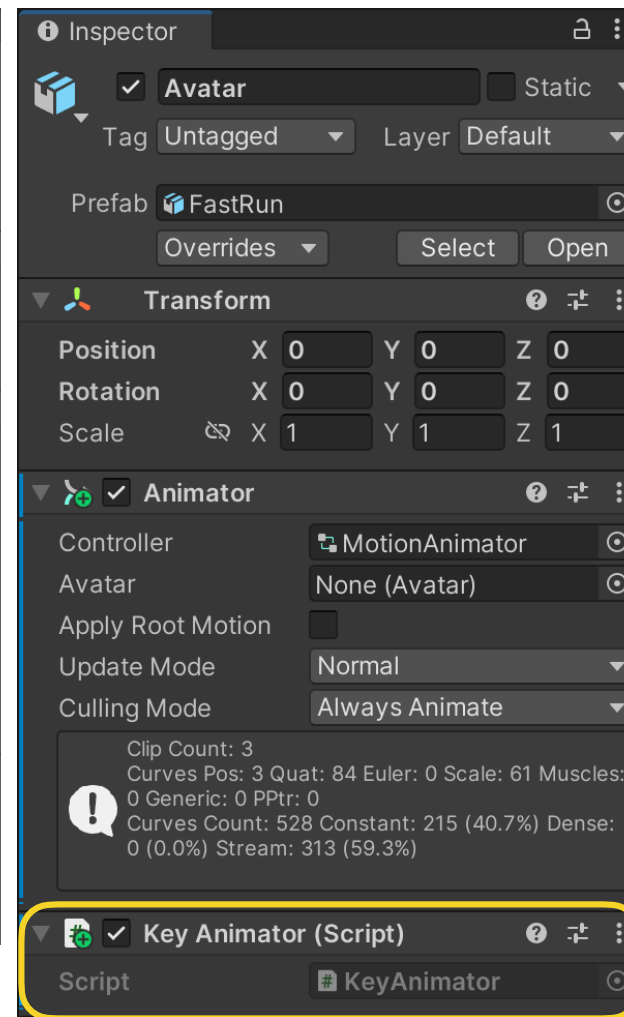
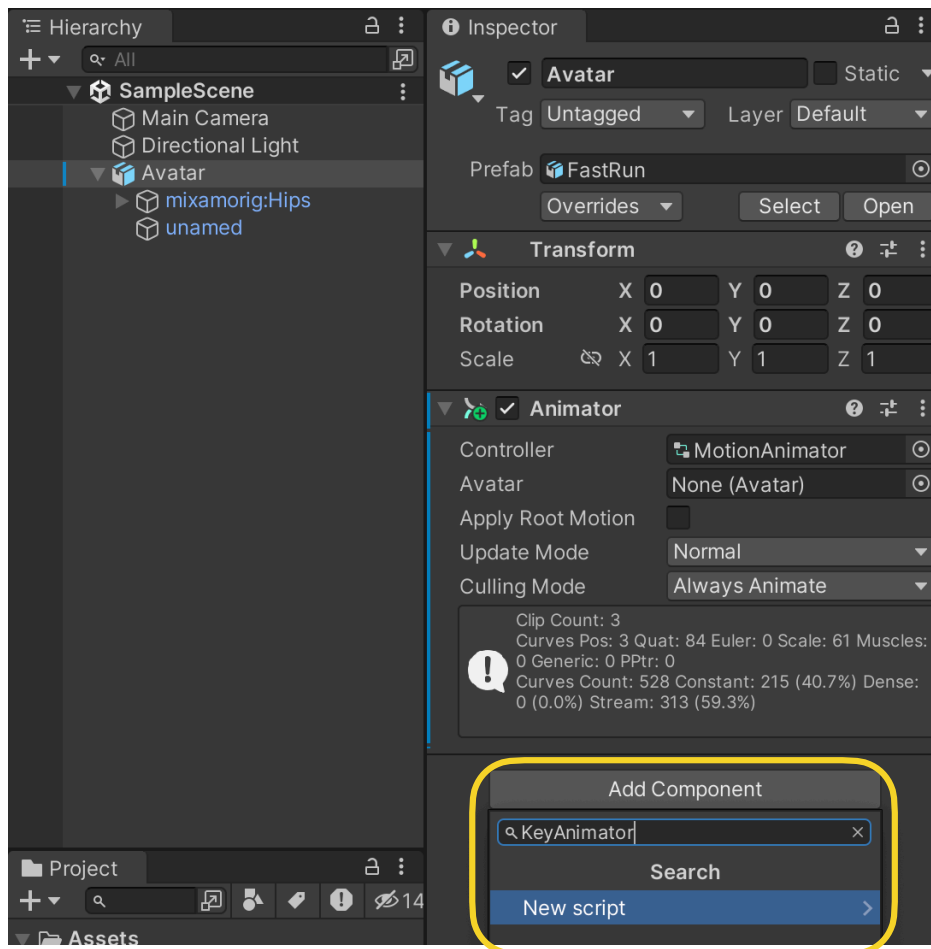
同様に3つのトランジションが、aflagの値（の変更）をフラグにして生じるように設定しておきます。

KEYによるトランジションの制御（準備）

Unity6以降？、KeyCodeのイベントハンドリングのシステムが変更したようです。今回の演習では旧来のコードをそのまま使うので、Edit/Player Settingsを開き、PlayerのActive Input Handling*を「Both」に変更してください（デフォルトはNew）。



KEYによるトランジッションの制御 (1/4)



Avatarに新たに「KeyAnimator」という名前のスクリプトを生成します。

KEYによるトランジションの制御 (2/4)

KeyAnimator.cs

```
1 using System.Collections;
2 using System.Collections.Generic;
3 using UnityEngine;
4
5 public class KeyAnimator : MonoBehaviour
6 {
7     public float speed = 0;
8     Animator animator;
```

public変数としてspeedを定義

```
12 void Start()
13 {
14     animator = GetComponent<Animator>();
15     animator.SetInteger("aflag", 0);
16 }
```

animatorコンポーネントを取得

起動時にaflagをゼロにセット

Start()

```
17
18 void Update()
19 {
20
21     if (animator.GetCurrentAnimatorStateInfo(0).IsName("Flair")){
22
23         if(Input.GetKeyDown(KeyCode.UpArrow)){
24             animator.SetInteger("aflag", 1);
25         }
26
27     }
28 }
```

Animationの状態が「Flair」のとき

KEY上ボタンが押されると、aflagを1にセット

Update() 1/3

Update() 2/3

Animationの状態が「FastRun」のとき

```
29 if (animator.GetCurrentAnimatorStateInfo(0).IsName("FastRun"))
30 {
31
32     if(Input.GetKeyDown(KeyCode.UpArrow)){
33         speed = Mathf.Min(speed+1, 20);
34
35         if(speed >= 20){
36             speed = 0;
37             animator.SetInteger("aflag", 2);
38         }
39     }
40
41     if(Input.GetKeyDown(KeyCode.DownArrow)){
42         speed = Mathf.Max(speed-1, 0);
43     }
44 }
45
46 }
```

KEY上ボタンが押されると、speedを1増やす

speedが20になると、aflagを2にセット

KEY下ボタンが押されると、speedを1減らす

Animationの状態が「Jumping」のとき

```
40
47 if (animator.GetCurrentAnimatorStateInfo(0).IsName("Jumping"))
48 {
49
50     if(Input.GetKeyDown(KeyCode.LeftArrow)){
51         animator.SetInteger("aflag", 0);
52     }
53
54 }
55
56 }
```

KEY左ボタンが押されると、aflagを0にセット

Update() 3/3

```
56
57 public void SetSpeed(float val){
58     this.speed = val;
59 }
60
61
62 }
```

SetSpeed()

外部からspeedの値を変更するためのパブリックなメソッドを定義しておきます。

KEYによるトランジションの制御 (3/4)

KeyAnimator.cs

Animationの状態が「FastRun」のとき

Update() 2/3

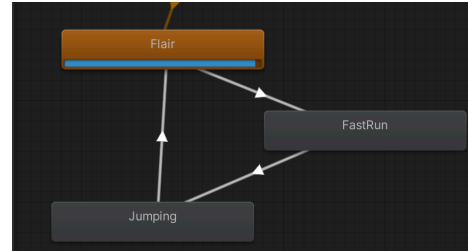
```
if(animator.GetCurrentAnimatorStateInfo(0).IsName("FastRun")){  
  
    if(Input.GetKeyDown(KeyCode.UpArrow)){  
        speed = Mathf.Min(speed+1,20);  
  
        if(speed>=20){  
            speed = 0;  
            animator.SetInteger("aflag",2);  
        }  
    }  
  
    if(Input.GetKeyDown(KeyCode.DownArrow)){  
        speed = Mathf.Max(speed-1,0f);  
    }  
}
```

speedで位置に反映させたい場合、例えば以下のようなコードを入れてください。

```
Vector3 pos0 = this.transform.position;  
Vector3 pos1 = new Vector3(pos0.x,pos0.y,pos0.z+speed*0.01f);  
this.transform.position = pos1;  
animator.speed = 1 + speed * 0.05f;
```

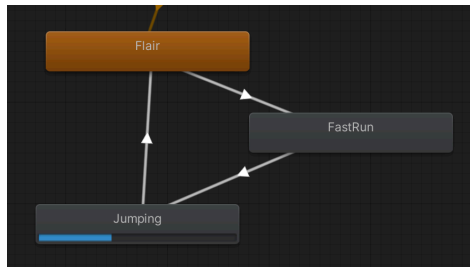
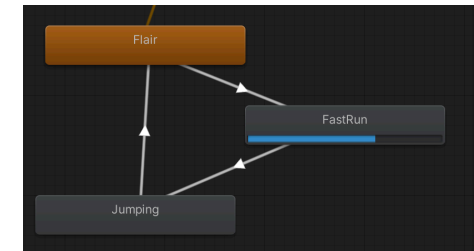
KEYによるトランジションの制御 (4/4)

Flair



speed = 0;

FastRun



Jumping

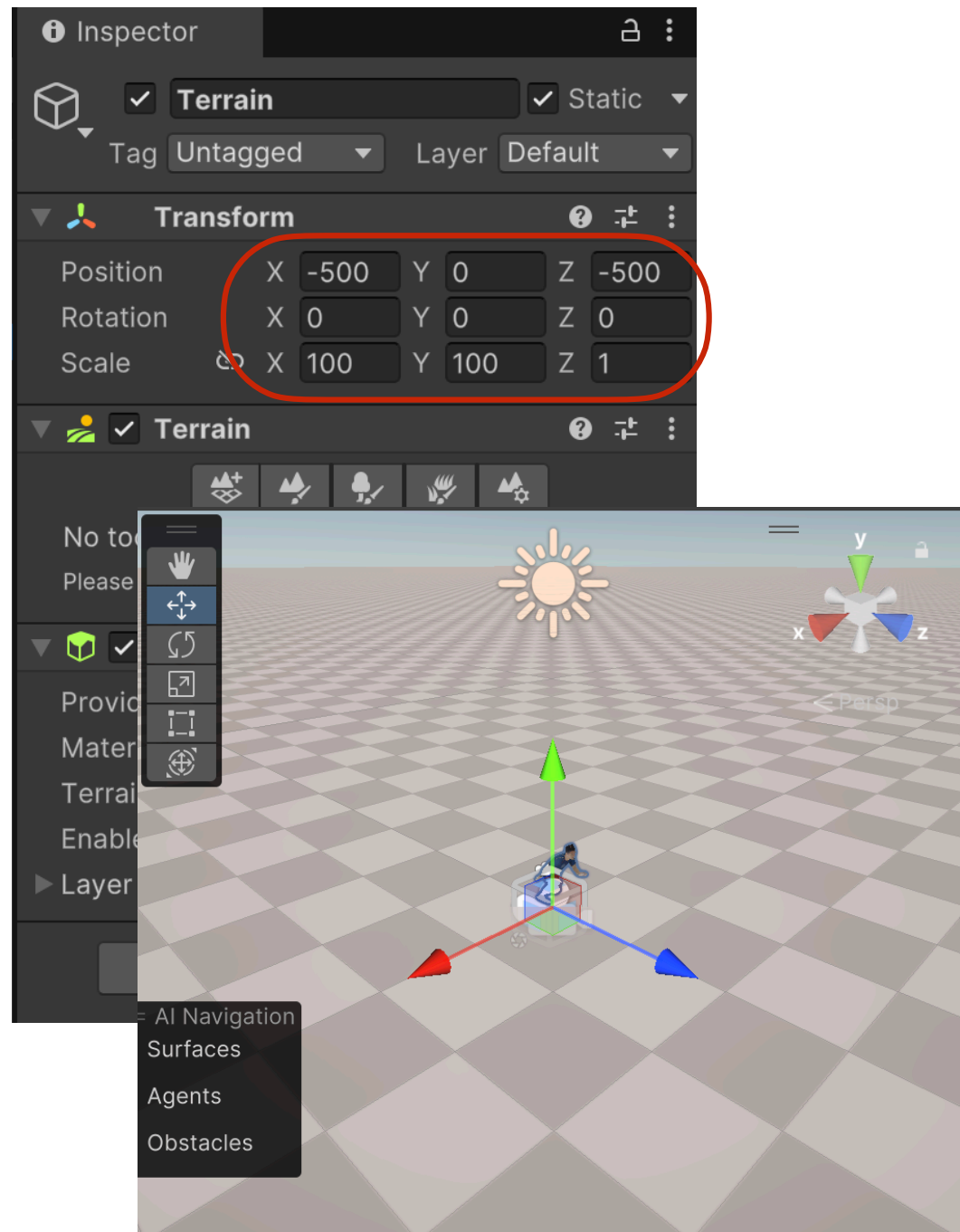
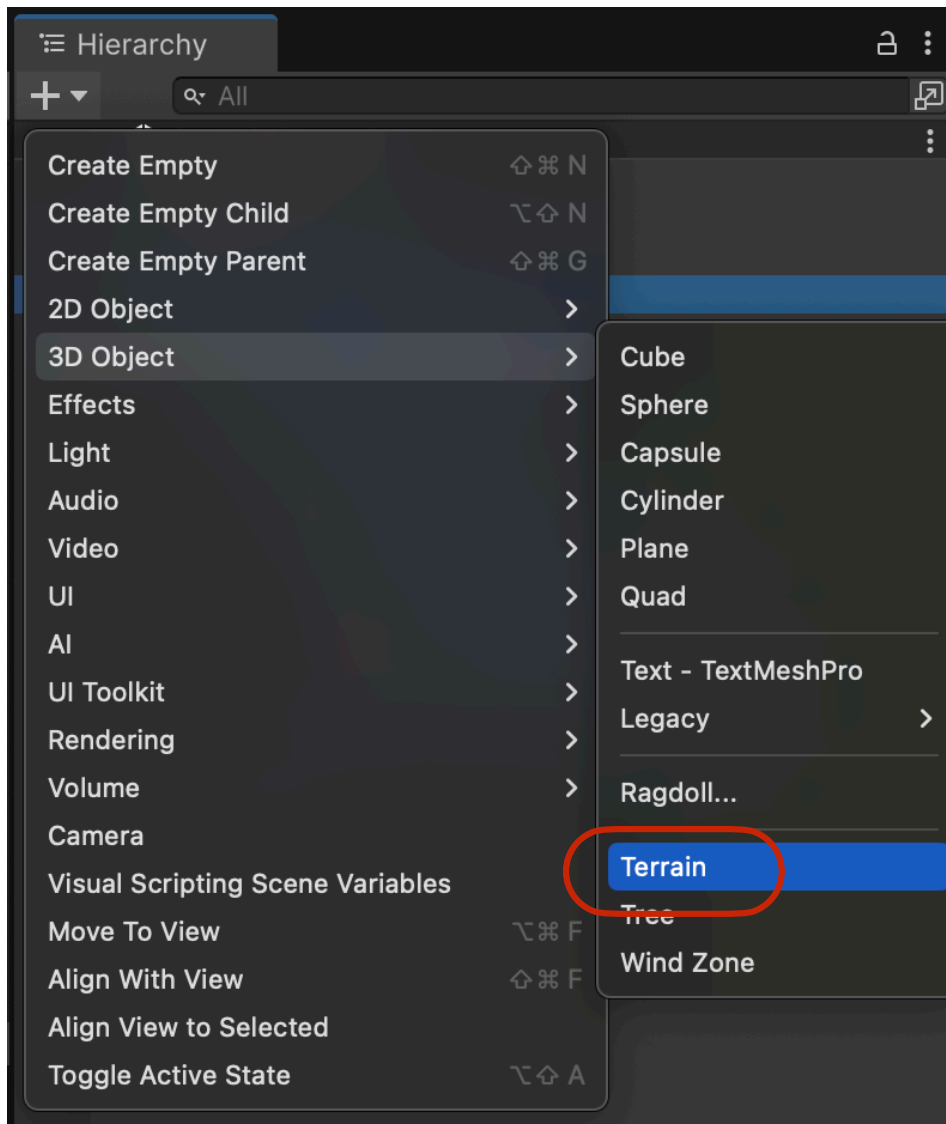
speedが20以上と
なった時



speed++;

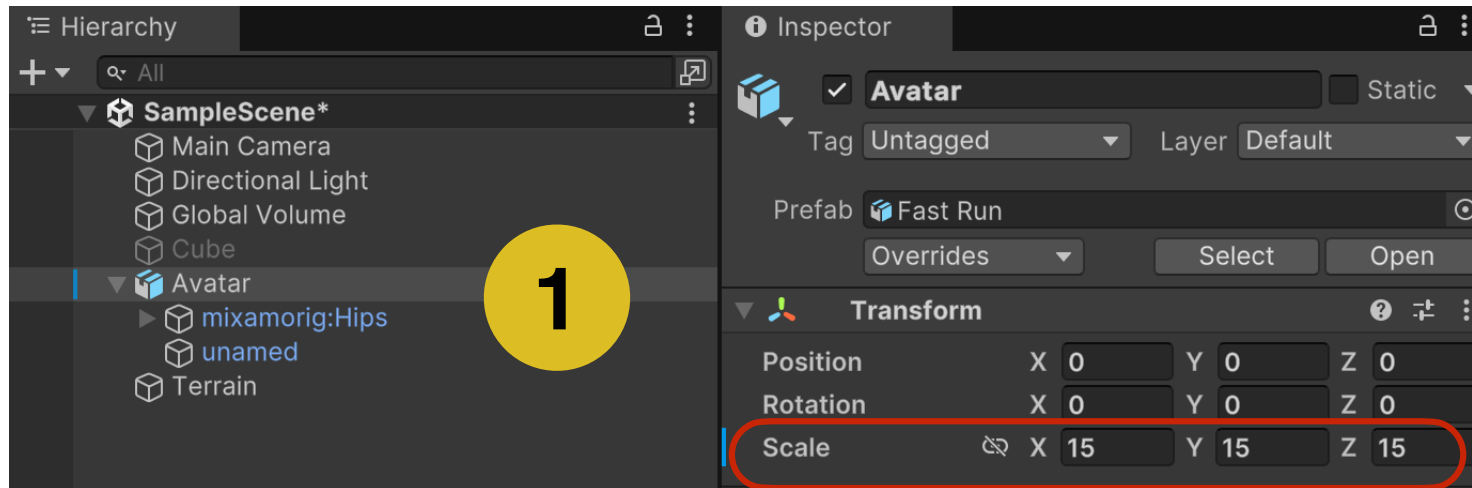
speed--;

補足 1 (床の配置)

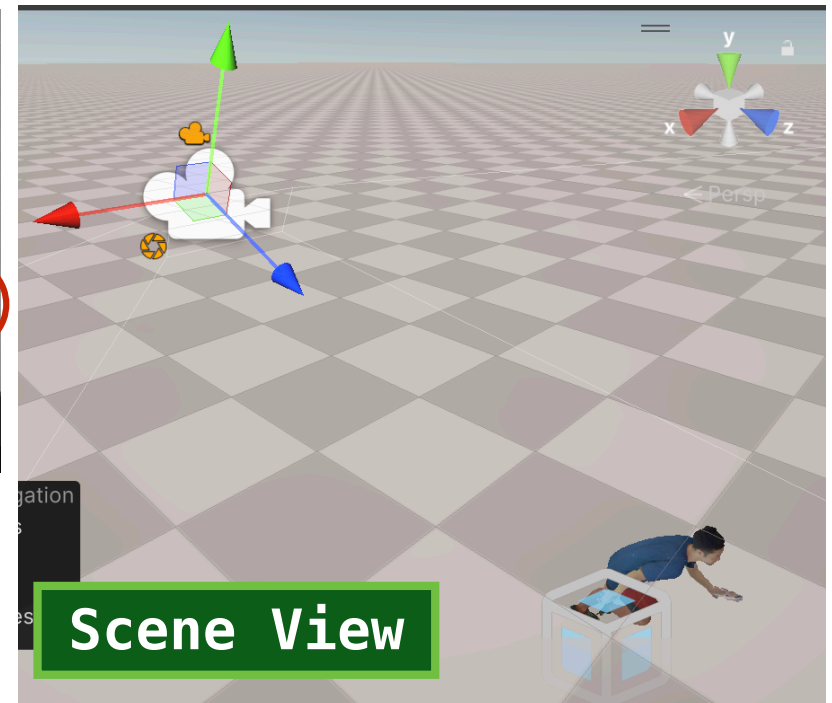
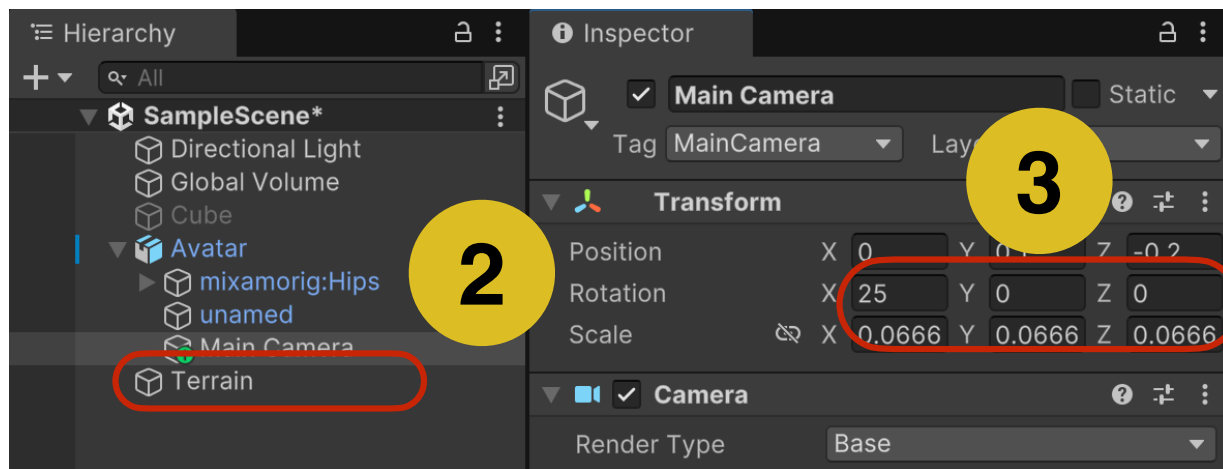


デフォルトで用意されているグリッドパターンの床を適当な位置に配置しておきます。

補足2 (アバターのスケール、カメラの位置)

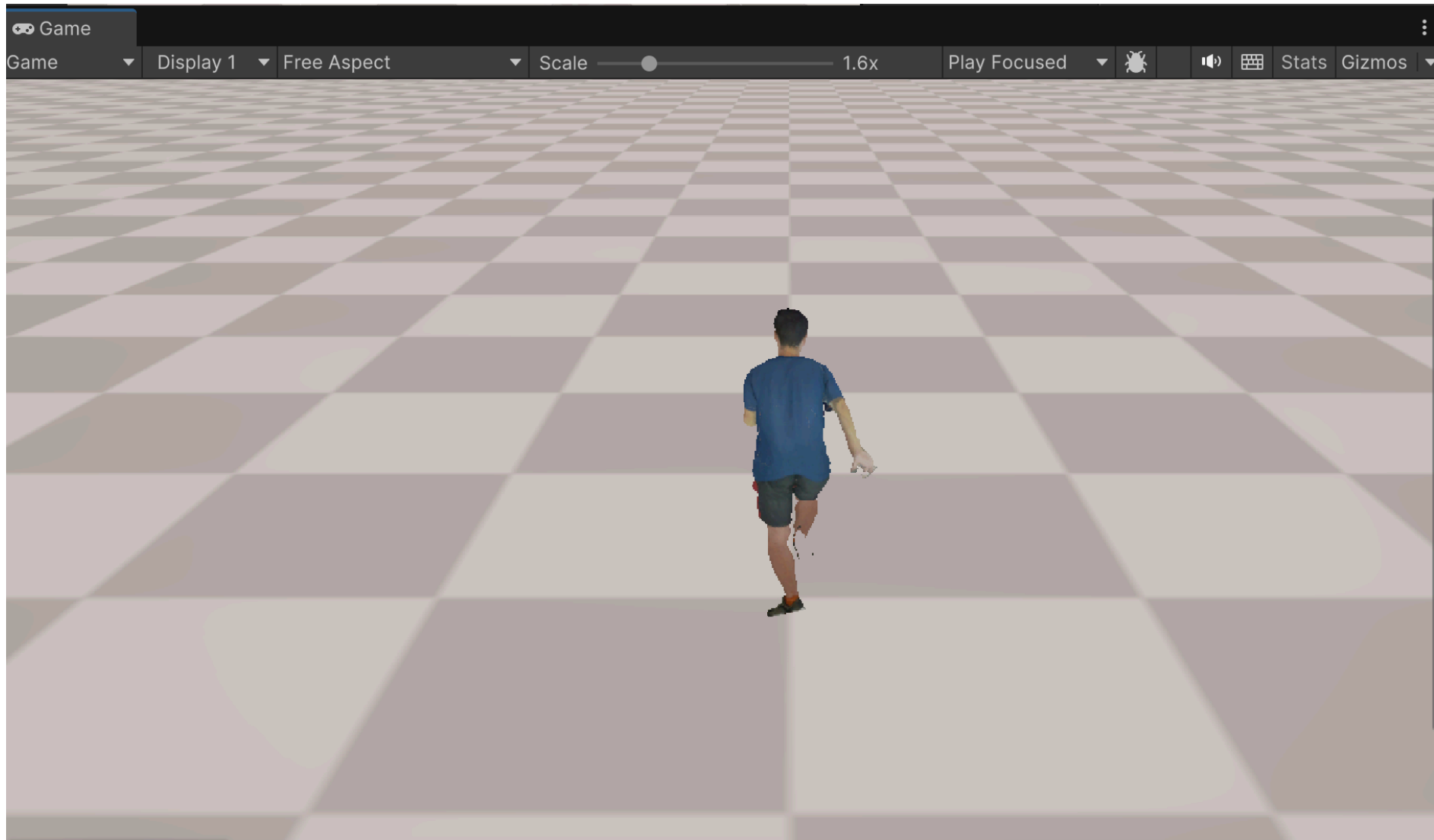


アバターの背の高さが適切となるようにスケールを変えます (mixamoのデータは10cm?)



カメラをアバターの子オブジェクトとして、アバターを常に見下ろせるようにPositionとRotationを調整します。

補足 2（アバターのスケール、カメラの位置）



ゲームビューでは常に背後からアバターの動きを追うようなレイアウトとなります。

Game View

OSC環境の設定（復習です）

UNITY側の準備

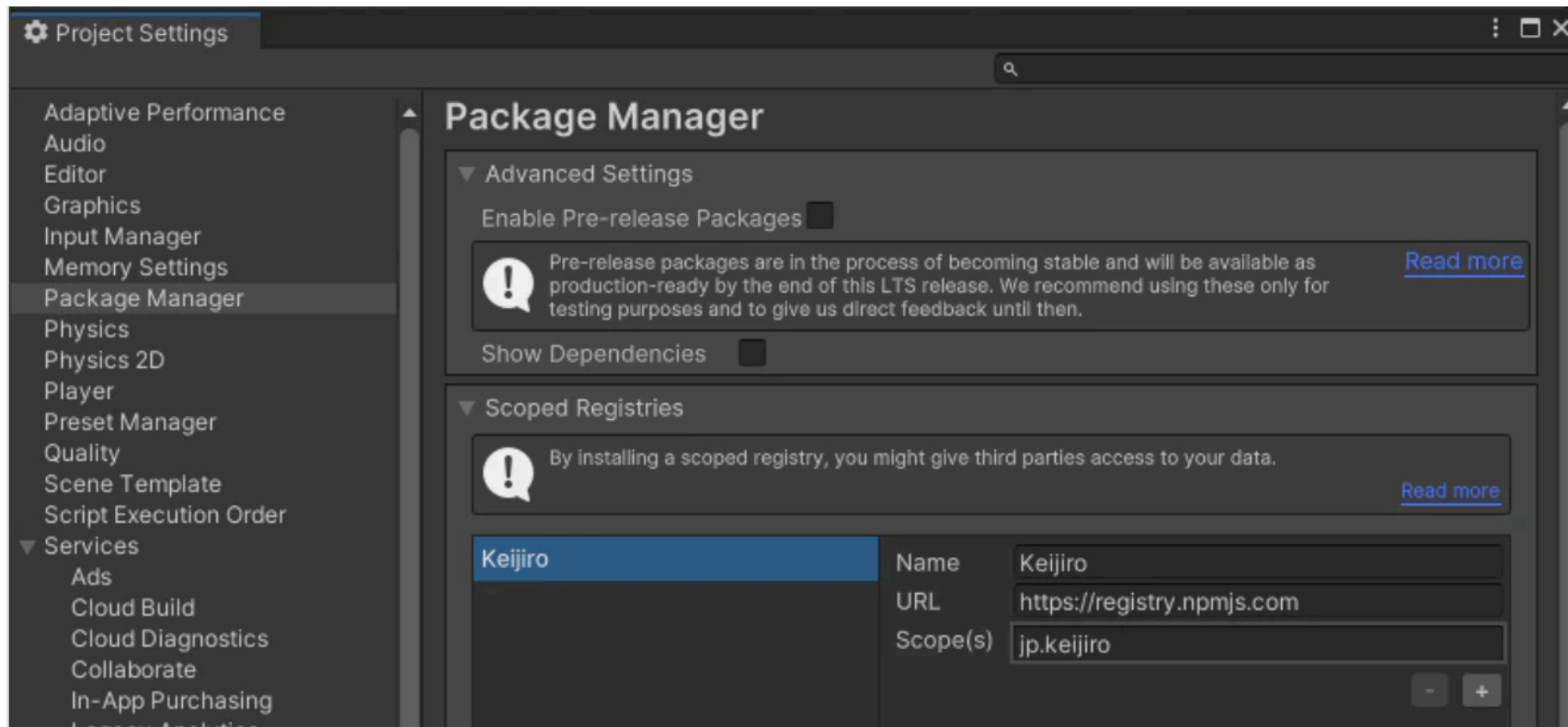
OscJackのインポート (1/2)

Edit→Project Settings→Package ManagerのScoped Registriesで以下のリポジトリ情報を登録

Name : Keijiro

URL : <https://registry.npmjs.com>

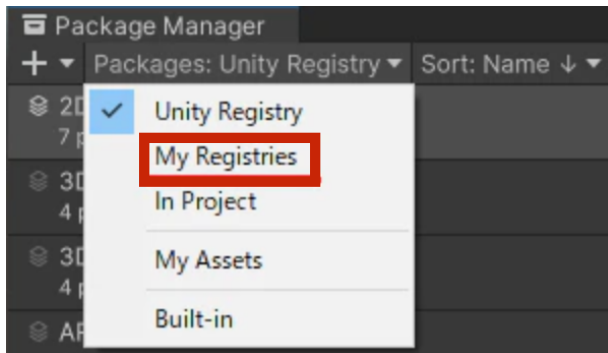
Scope(s) : jp.keijiro



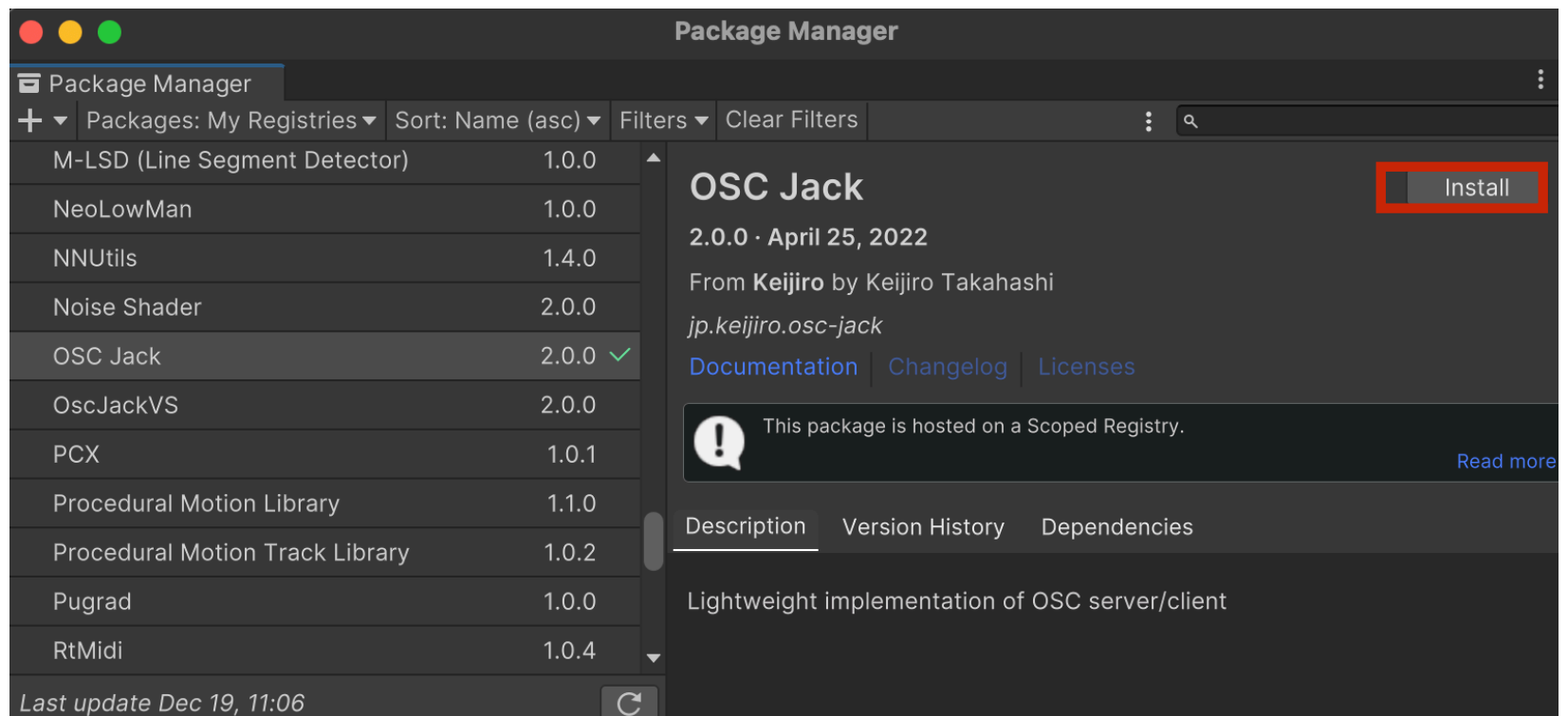
UNITY側の準備

OscJackのインポート (2/2)

Window→Package Managerを開き、
ウィンドウ左上のPackages:の項目をMy Registriesに変更する。



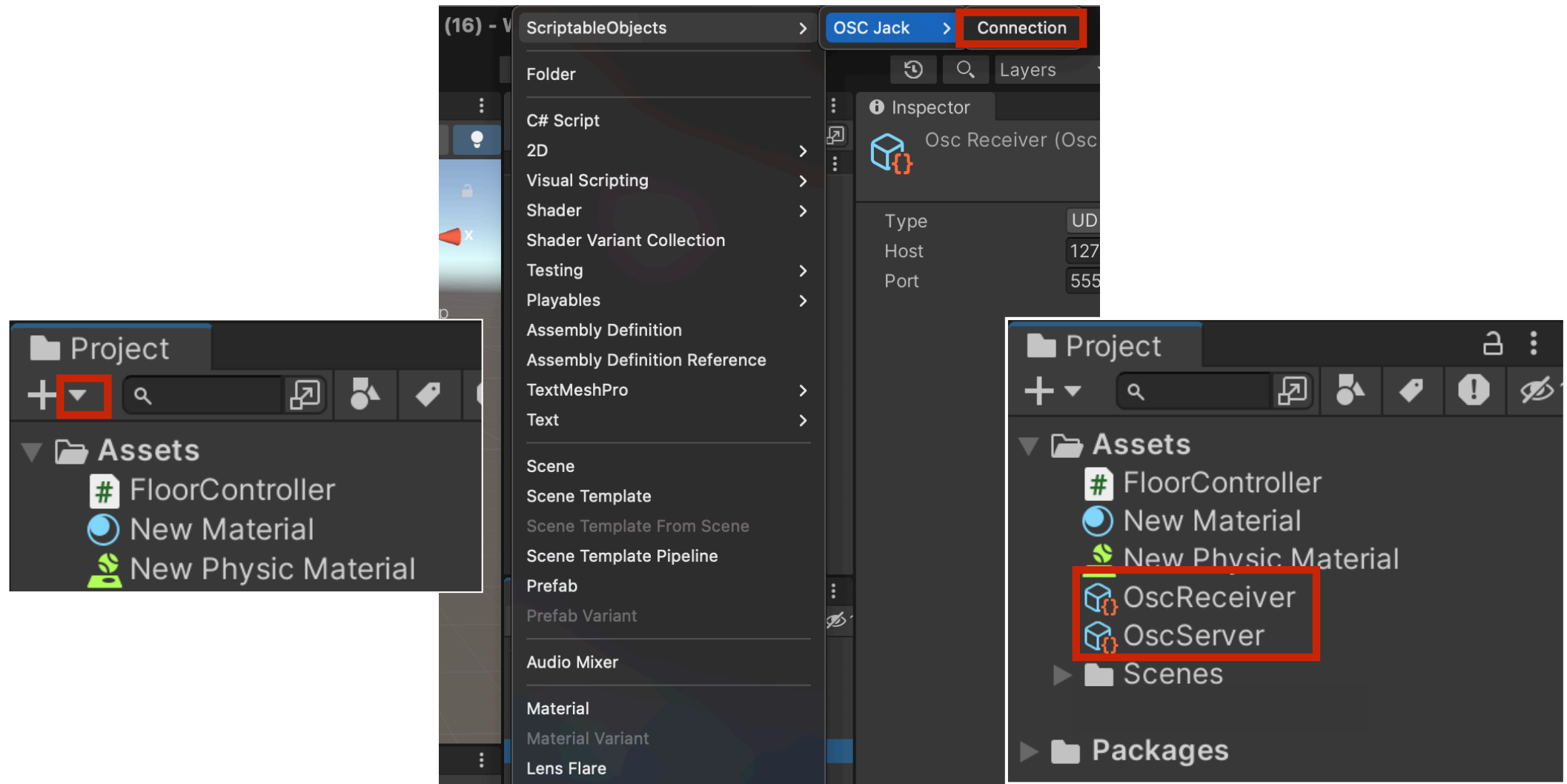
リストから OSCJackを選択し、Installボタンを押す。これでインポートは完了。



UNITY側の準備

ポート情報を管理するConnectionの設定

Projectタブ左上▼→ScriptableObjects→OSC Jack→Connection
以上の接続情報を管理するオブジェクトを2つ生成し（Unity側とProcessing側）、それぞれOscServer、OscReceiverとリネームしましょう。

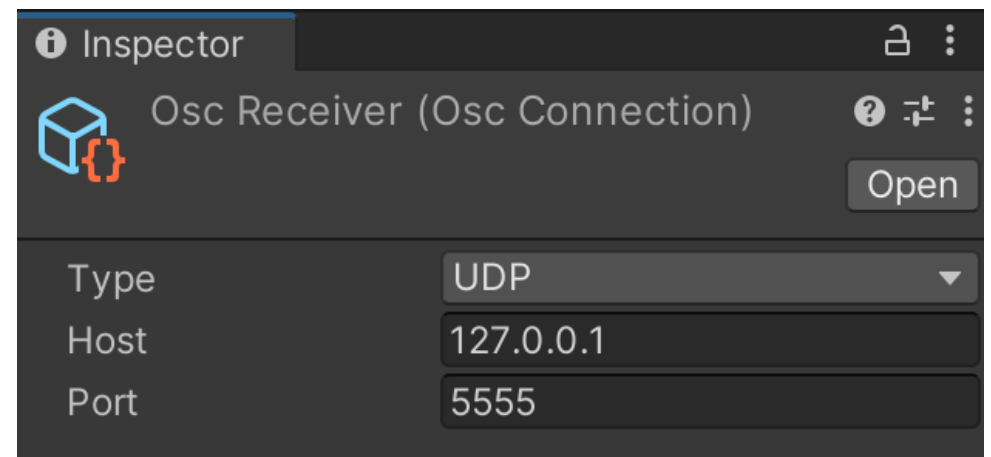
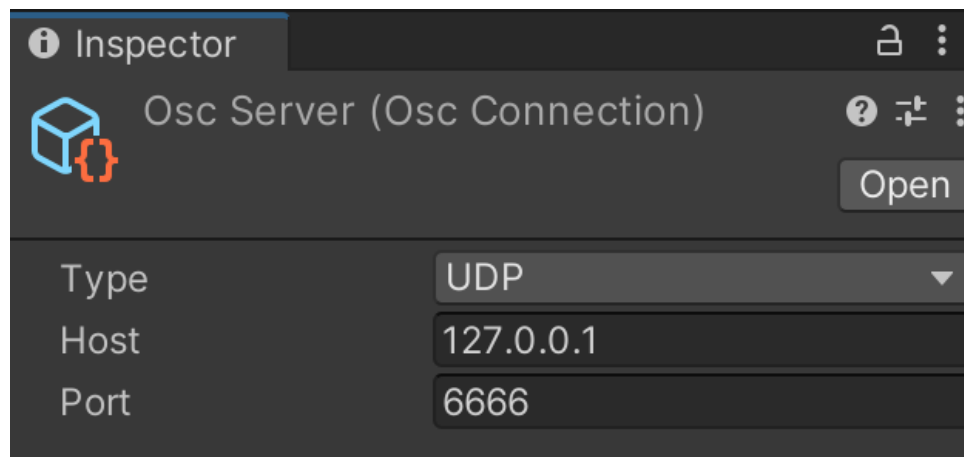
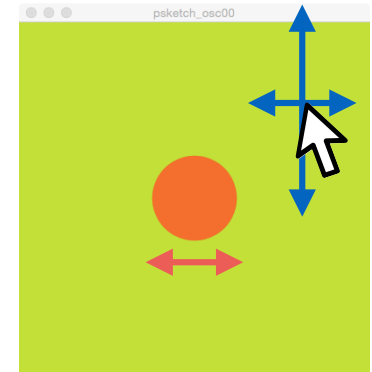
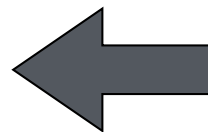
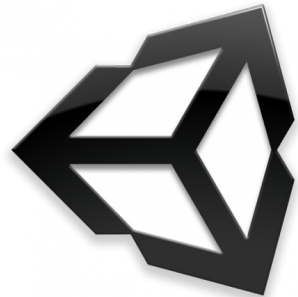
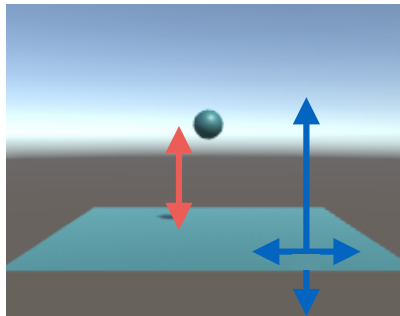


127.0.0.1 / 6666

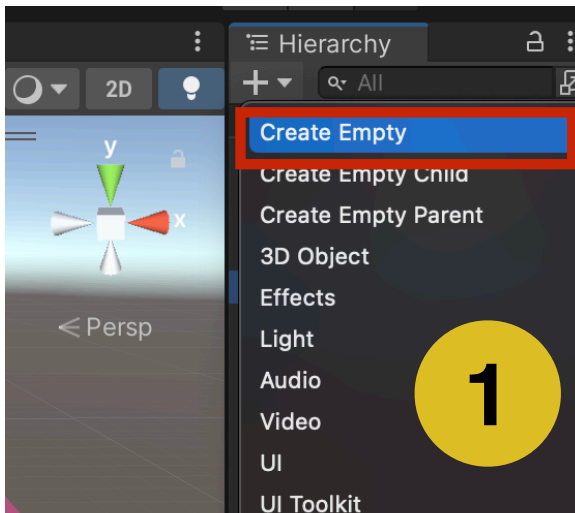
127.0.0.1 / 5555

SERVER

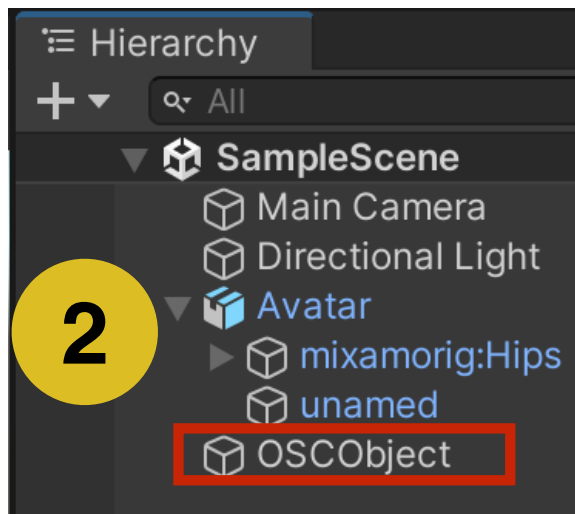
Client



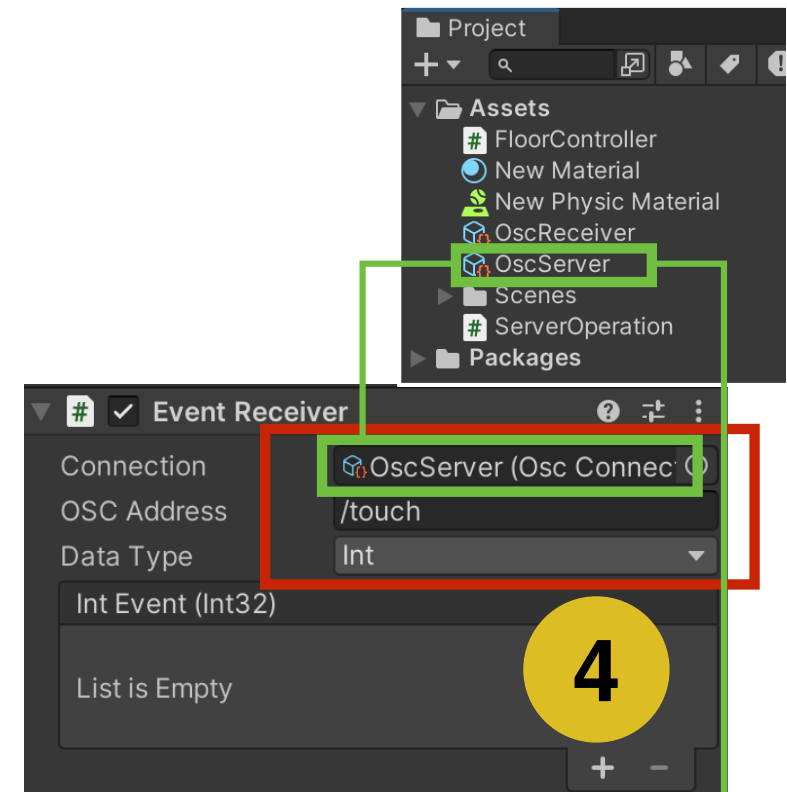
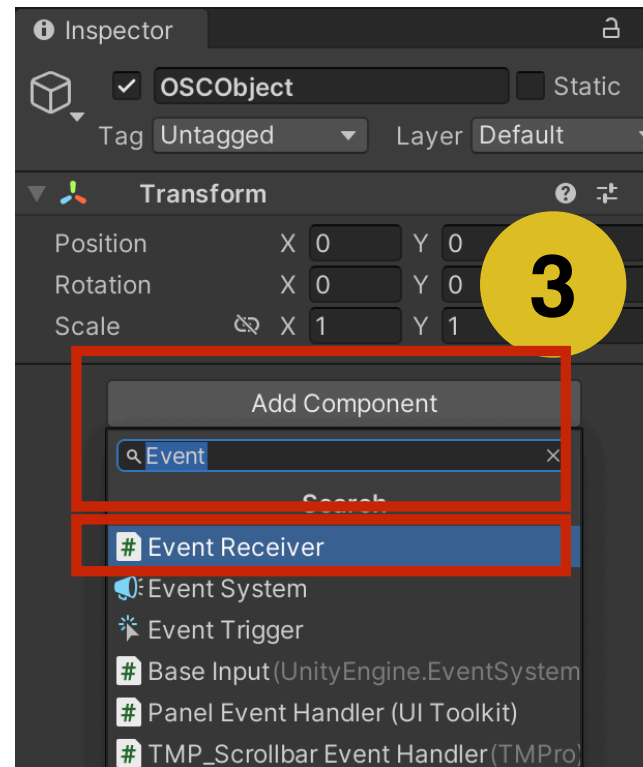
EventReceiverの設定



Add Componentより「EventReceiver」を1つ追加します。受信するOSC情報を管理するためのコンポーネントです。



空のゲームオブジェクトを作成し、OSCObjectとリネームする。



Connectionにすでに作成した「OscServer」をアタッチし、OSCAddressに/touchを、Data Typeを「Int」に設定しておきます。

圧力センサの値をビジュアライズする

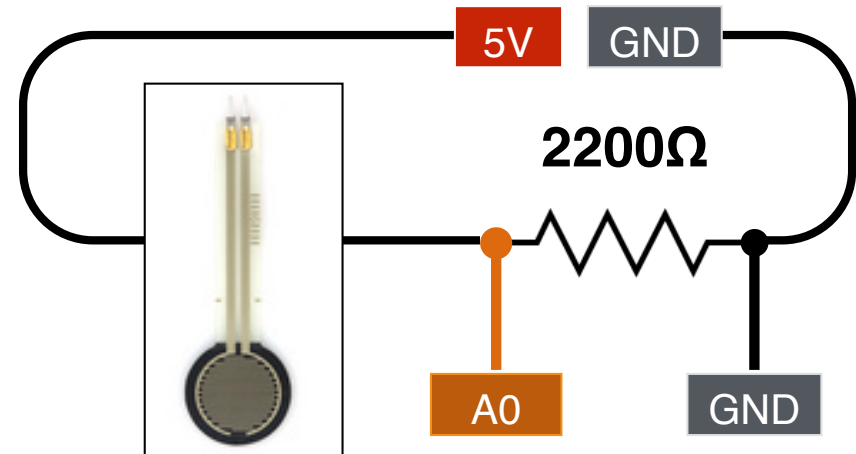
psketch_Touch.pde

```
1 import processing.serial.*;
2 import cc.arduino.*;
3 import org.firmata.*;
4
5 Arduino arduino;
6 int sensorPin = 0; //A0に対応
7
8 void setup(){
9   //println(Arduino.list());
10  arduino = new Arduino(this, Arduino.list()[3] ,57600);
11  arduino.pinMode(sensorPin, Arduino.INPUT);
12  size(800,100);
13 }
14
15 void draw(){
16   float val = arduino.analogRead(sensorPin);
17   println(4.63 * val / 1023.);
18
19   background(0); fill(255,100,0); stroke(255);
20   rect(0,0,width*val/1024.,height);
21 }
22 }
```

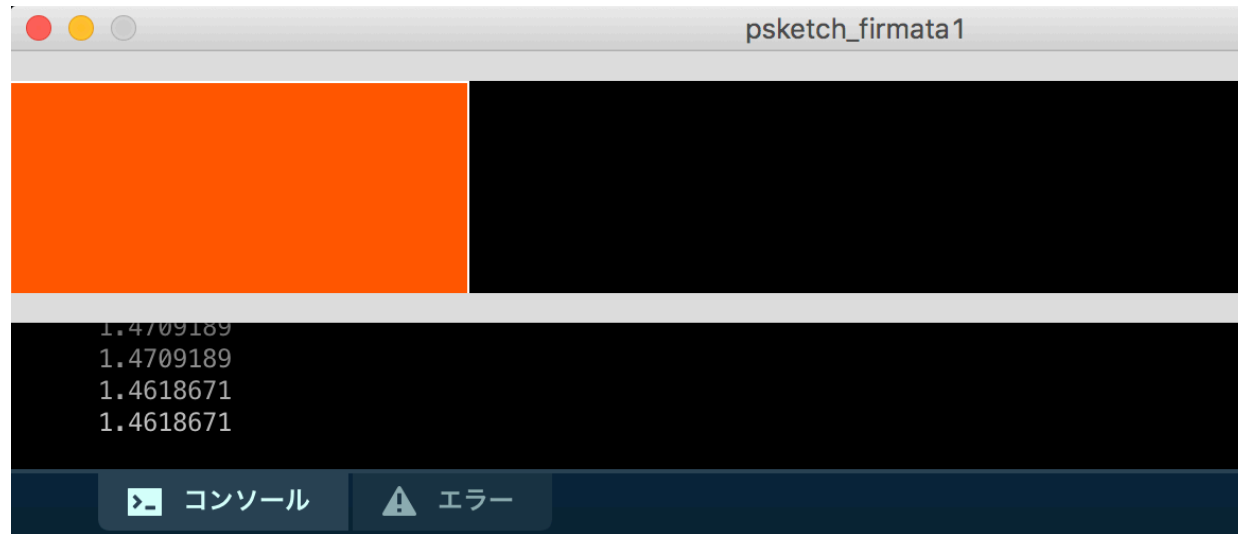
ArduinoのANピンは, Processing
では整数型のNに対応します.

0からMax (V) を0から1023のレンジで読
み込みます. この例でのMaxは4.63Vです.

背景は黒、塗りつぶしオレンジ、
枠線の色は白で、valに応じて長
方形の幅を変化させています.

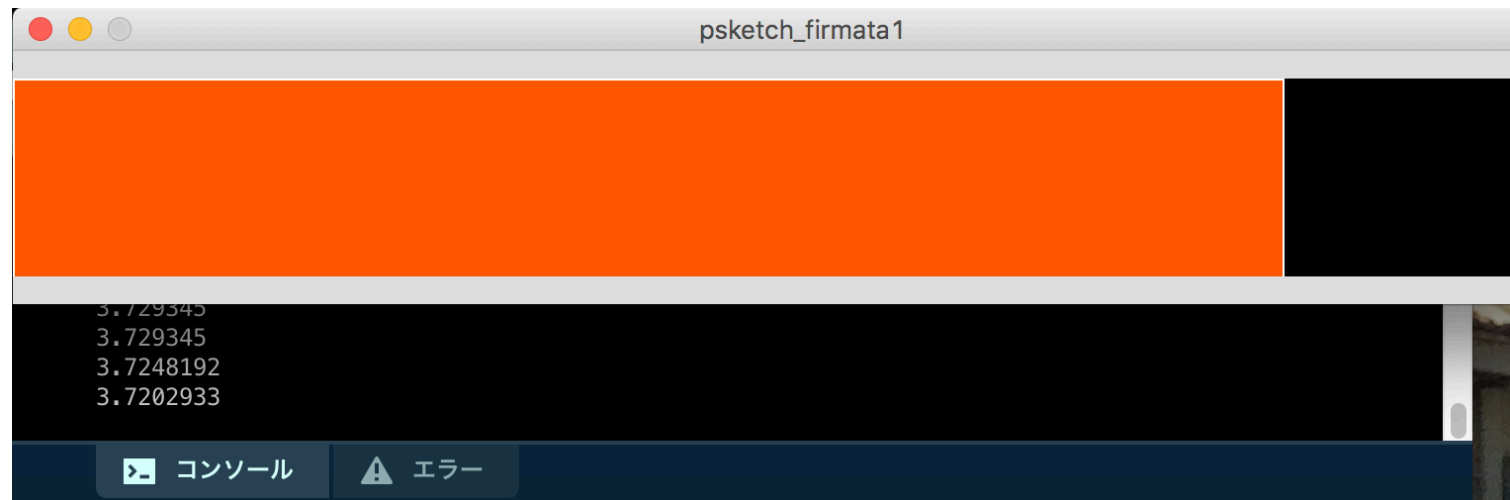


圧力センサの値をビジュアライズする



実行結果

圧力センサを押すと、バーの長さが伸び縮みします。



圧力センサの値をOSC通信で送信

追記部分

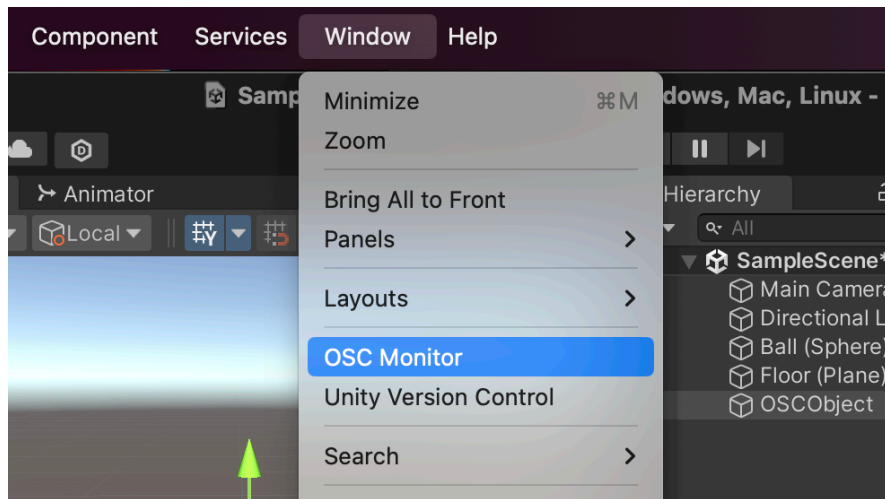
```
1 import processing.serial.*;
2 import cc.arduino.*;
3 import org.firmata.*;
4
5 import oscP5.*;
6 import netP5.*;
7
8 Arduino arduino;
9 int sensorPin = 0;
10
11 OscP5 oscP5;
12 NetAddress myRemoteLocation;
13
14 void setup(){
15   arduino = new Arduino(this, Arduino.list()[1], 57600);
16   arduino.pinMode(sensorPin, Arduino.INPUT);
17   size(800, 100);
18
19   oscP5 = new OscP5(this, 12000);
20   myRemoteLocation = new NetAddress("127.0.0.1", 6666);
21 }
22
23
24 void draw(){
25
26   float val = arduino.analogRead(sensorPin);
27   println(5.17 * val / 1023.);
28   background(0); fill(255, 100, 0); stroke(255);
29   rect(0, 0, width * val / 1024., height);
30
31   OscMessage myMessage = new OscMessage("/touch");
32   myMessage.add(int(val)); /* add an int to the osc message */
33   oscP5.send(myMessage, myRemoteLocation);
34 }
```

psketch_Touch_osc.pde

psketch_Touch.pde
にOSC通信のコード
を追加します。

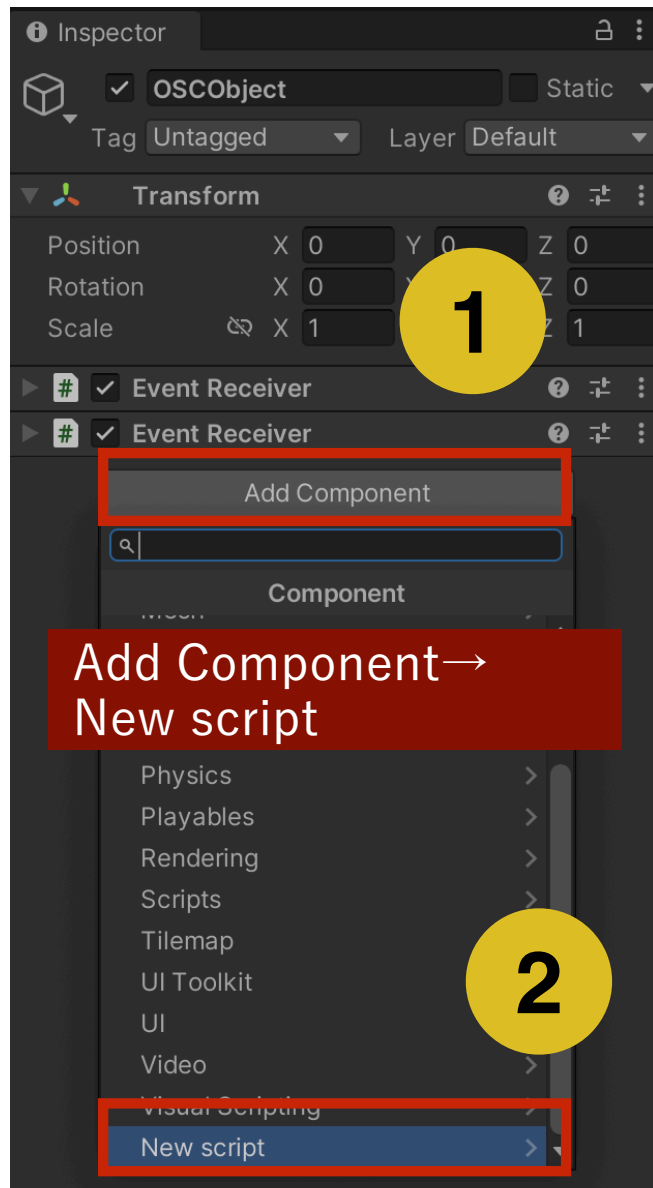
OSC Monitorによる受信状況の確認

この状態で、Window→OSC Monitorを開いてUnityを走らせる一方、Processing側も起動して、圧力センサを押すと、OSC Monitorに圧力センサの数値が届いていることがわかります。

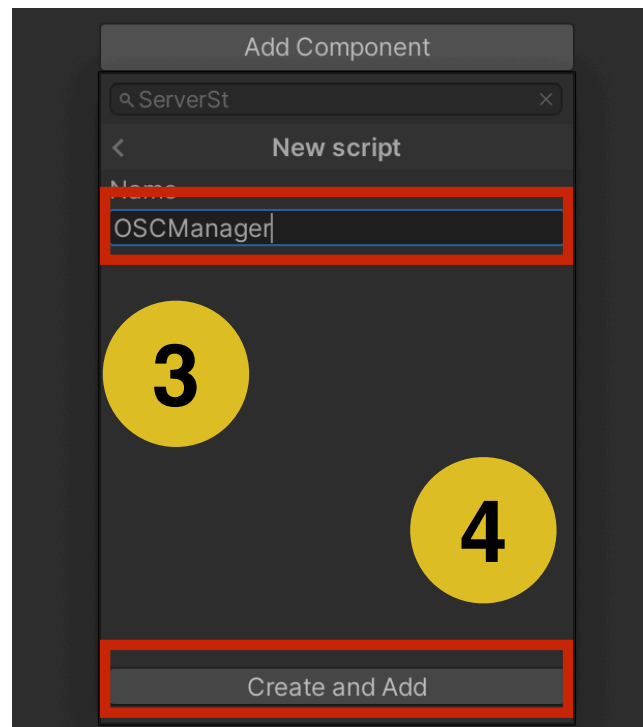


コールバック関数の作成と関連付け (1/3)

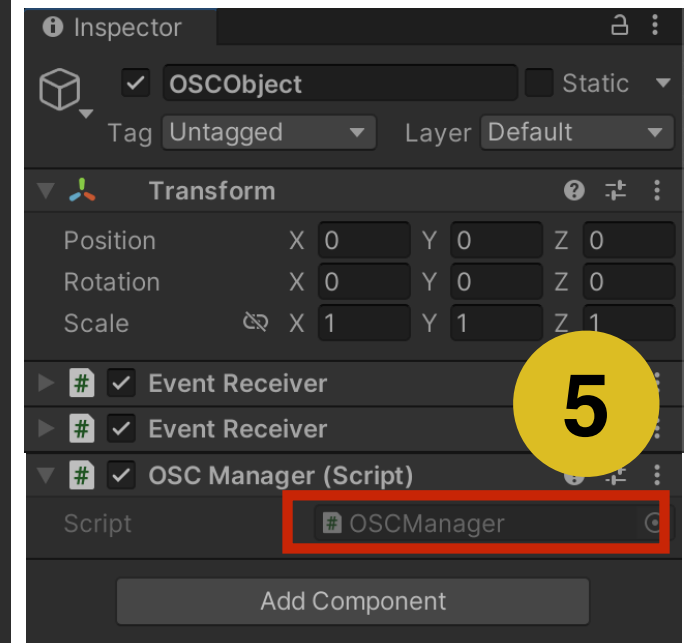
OSCObjectのコンポーネントとして、新しいスクリプトファイル (OSCManager) を作成します。



Add Component→
New script



スクリプトの名前を
「OSCManager」とし
「Create and Add」し
て作成

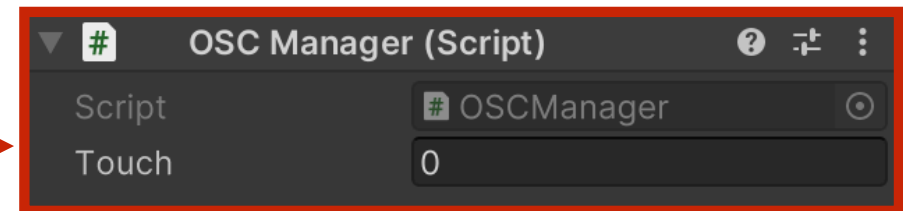


新たに作成された、
OSCManagerをダブルク
リックして、編集エディタ
を開きます。

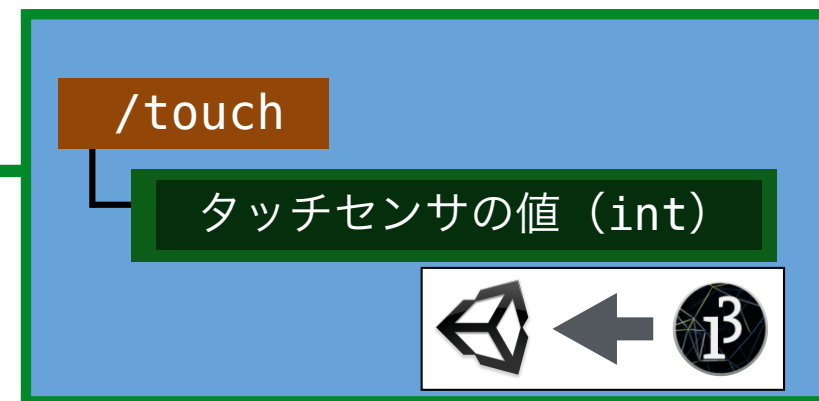
コールバック関数の作成と関連付け (2/3)

デフォルトのstart関数
とupdate関数は消去し
てください。

```
1 using System.Collections;
2 using System.Collections.Generic;
3 using UnityEngine;
4
5 public class OSCManager : MonoBehaviour
6 {
7
8     public int touch;
9
10    public void getTouch(int val){
11
12        touch = val;
13    }
14
15 }
```



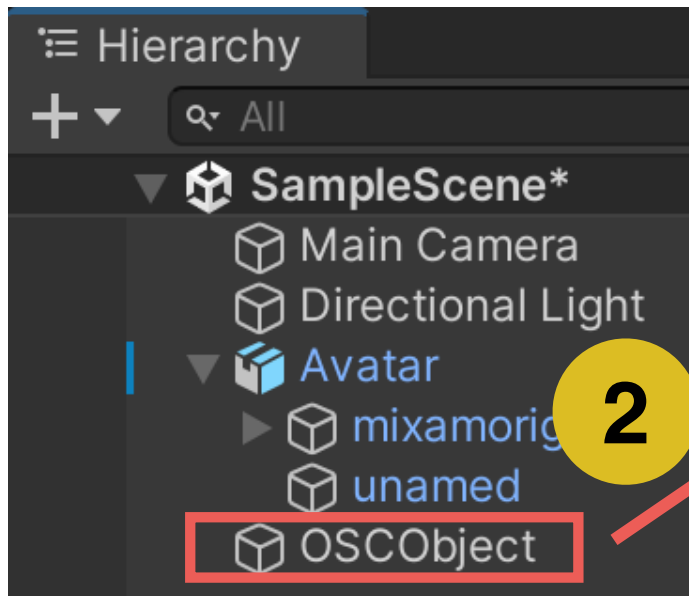
public変数は、他のスクリプトファイルから参照可能になるとともに、インスペクタビューに表示され、リアルタイムに値を参照することができるようになります。



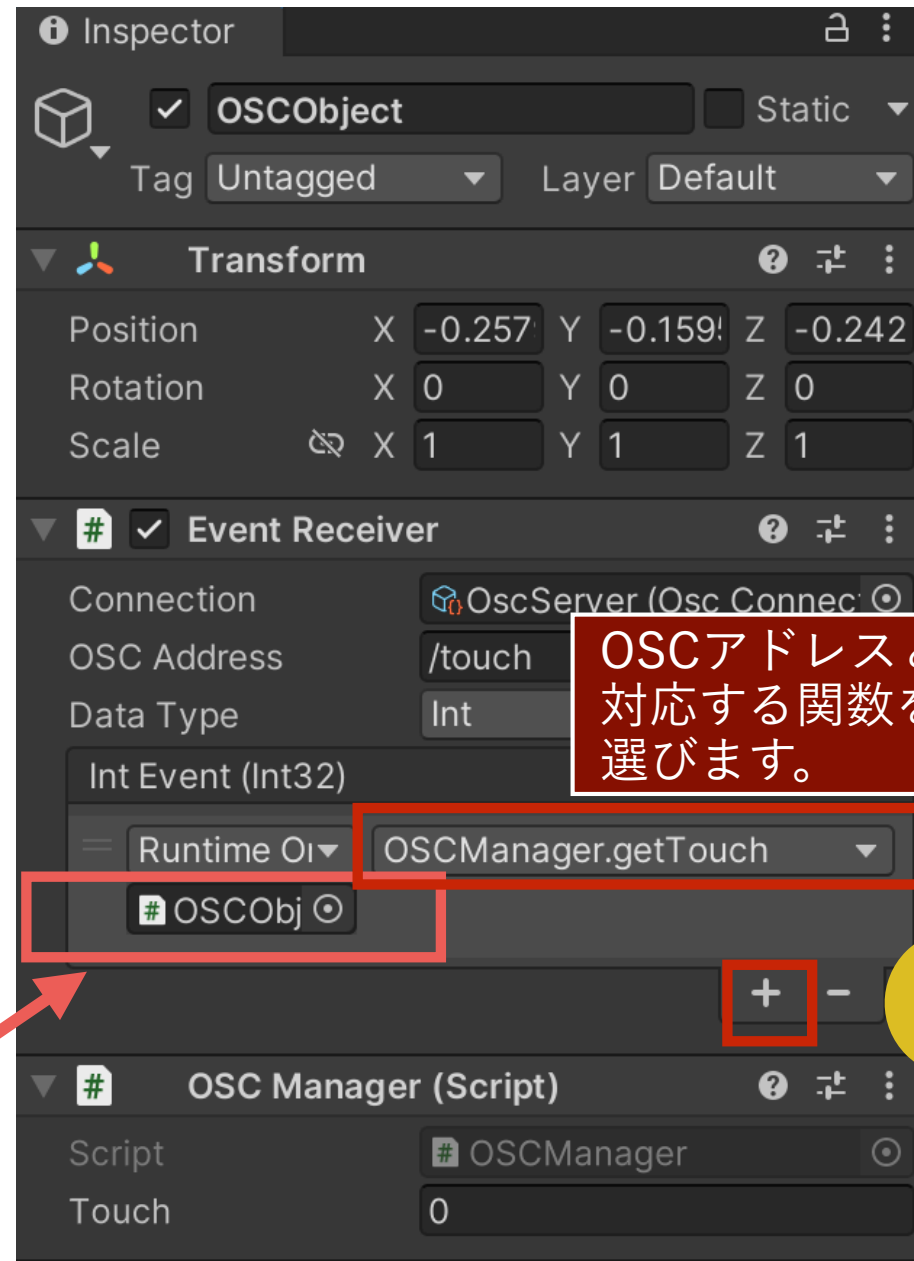
/touchを受け取るためのコールアップ関数を作成しておきます。引数がint型であることに注意。（おそらく複数の引数はとれない模様）

コールバック関数の作成と関連付け (3/3)

個別のOSCアドレスごとに、すでに作成済みのコールバック関数に対応させていきます。結果的に、圧力センサの値がOSC Managerの変数Touchに反映されることを確認してください。



先ほど作成したコールバック関数の入っているゲームオブジェクトであるOSCObjectをアタッチします



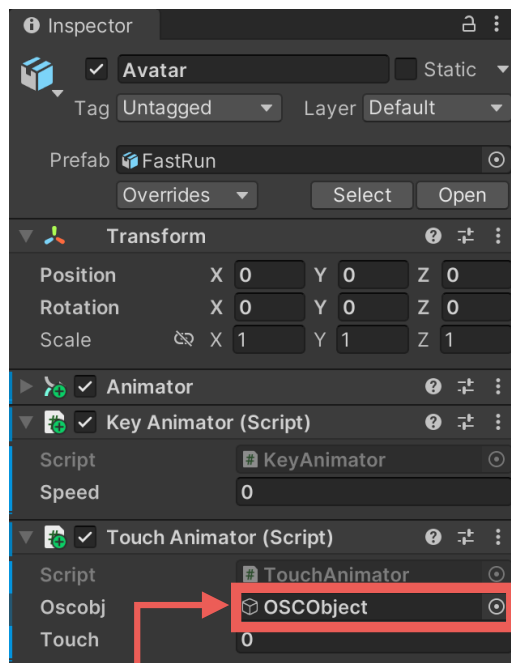
OSCアドレスと対応する関数を選びます。

3

1

Arduinoによるアニメーションの制御（一例）

Avatarのコンポーネントに、新たにTouchセンサの値を使って、アニメーションを制御するスクリプト「TouchAnimator」を生成します。



```
public class TouchAnimator : MonoBehaviour
{
    public GameObject oscobj = null;
    private KeyAnimator keya;
    private OSCManager oscmng;

    public int touch;
    Animator animator;
```

```
void Start()
{
    oscmng = (OSCManager)oscobj.GetComponent("OSCManager");
    keya = (KeyAnimator)this.GetComponent("KeyAnimator");
    animator = GetComponent<Animator>();
}
```

```
void Update()
```

```
{
    touch = oscmng.touch;

    if (animator.GetCurrentAnimatorStateInfo(0).IsName("Flair")){
        if(touch>600){
            animator.SetInteger("aflag",1);
        }
    }
```

Animationの状態が「Flair」のとき

touch>600で、aflagを1にセット

```
    if (animator.GetCurrentAnimatorStateInfo(0).IsName("FastRun")){
        float newspeed = keya.speed + 0.01f * (touch - 600f);
        newspeed = Mathf.Clamp(newspeed,0f,100f);
        keya.SetSpeed(newspeed);
    }
}
```

Animationの状態が「FastRun」のとき

touch=600を境に、KeyAnimatorのspeedを、0~100の範囲で増減させる。